

平成25年度（平成24年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

平成25年9月

田辺市教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 教育委員会の概要	2
3. 教育委員会の点検・評価の概要	10
4. 教育委員会に係る事務事業の点検・評価の結果について	12
5. 事務事業評価シート.....	14
(1) 人を大切にするまちづくり	14
ア. 人権意識の向上を図ります	
①人権学習の推進	
(2) 子どもをはぐくむまちづくり	16
ア. 学校教育を充実します	
①教育内容の充実	
②開かれた学校づくり	
③健康の保持増進と学校給食の充実	
④教育環境の充実	
イ. 青少年の健全育成を推進します	
①健全育成活動の充実	
(3) 文化のかおるまちづくり	23
ア. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します	
①郷土が生んだ偉人の顕彰	
イ. ふるさと文化の振興を図ります	
①芸術文化の振興・発展	
ウ. 文化財を保護します	
①世界遺産の保全・継承	
②文化財の保存・整備	
(4) 学びを支えるまちづくり	29

ア. 生涯学習の振興を図ります

- ①学習機会の充実
- ②学社融合の推進
- ③学習環境の充実
- ④学びを通じた地域づくりの推進

イ. 生涯スポーツの振興を図ります

- ①スポーツ・レクリエーション支援体制の充実
- ②スポーツ・レクリエーション機会の充実

(5) 国際化に対応するまちづくり 38

ア. 国際交流を推進します

- ①国際交流体制の充実

6. 田辺市教育委員会事務事業点検評価委員会の意見等について 40

7. おわりに 54

1. はじめに

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の趣旨に基づき、地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、地域の教育に対する責務やその役割をしっかりと認識し、透明性を高め、説明責任を果たして行かなければなりません。また同法により、教育行政事務の管理及び執行の状況について、毎年、点検・評価を実施し、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

田辺市教育委員会では、平成24年度に実施した事務事業について点検・評価を行い、事業目標に対する達成状況や今後の課題等を明らかにするとともに、学識経験を有する方々から様々なご意見等をいただき、本報告書として取りまとめました。

今後においても、田辺市教育行政基本方針に基づいて、より効果的な教育行政の推進に努めてまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成25年9月

田辺市教育委員会

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一条の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

◎平成24年度田辺市教育行政基本方針

1. 各地域の教育実践を尊重しながら、教育改革を推進するとともに、市民一人ひとりがいつでも、どこでも学べる生涯学習社会の構築に努める。
2. 学社融合を推進して、学校・家庭・地域の教育力向上を図るとともに、三者一体となって青少年の健全育成に取り組む体制をつくり、地域の特色ある教育づくりに努める。
3. 教育委員会の活性化を図り、教育委員会機能を強化するとともに、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、教育行政の充実に努める。
4. 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のバランスがとれた児童生徒の育成を目指し、学校運営体制の確立、学習指導法の改善、生徒指導の充実に図り、保護者・地域から安心して信頼して子どもを託される質の高い教育を保證する学校づくりに努める。
5. 学校施設の安全性の確保を図るため、早期耐震化に向けた取組を進める。
6. 人権を尊重し、文化を愛し、スポーツに親しみ、家庭や郷土・国を愛する教養のある人間の育成を目指して、市民が自主的・主体的に学習する活動を奨励援助するとともに、市民の学習機会の拡充を図り、社会教育の充実発展に努める。
7. 古い歴史と美しい海山の自然に感謝し、歴史遺産を保護するとともに伝統文化の継承と新しい文化の創造並びに学術・芸術の奨励振興を図り、文化のかおるまちづくりに努める。

2. 教育委員会の概要

(1) 教育委員（5人、任期4年）

（平成25年9月1日現在）

職名	氏名	就任年月日
教育委員長	廣本喜亮	平成17年5月1日
委員長職務代理者	向井孝	平成19年7月20日
委員	玉置信彦	平成21年7月20日
委員	松上京子	平成25年7月20日
委員（教育長）	中村久仁生	平成18年7月20日

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議については、原則として毎月第2水曜日に「教育委員会定例会」を開催し、2～3月に開催した「教育委員会臨時会」と併せて、合計15回開催しました。

- ①教育委員会定例会… 12回
- ②教育委員会臨時会… 3回

(3) 教育委員会会議での審議・報告状況

教育委員会会議では、合計38件の議案について審議しました。

議案審議の内容は、次のとおりです。

- ①教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針…………… 4件
- ②教育予算、条例の制定及び改廃その他議会の議決を経るべき
事項について意見申出…………… 7件
- ③教育委員会関係規則等の制定及び改廃…………… 5件
- ④教育委員会及び教育委員会所管の附属機関の委員の任命・委嘱、
その他人事に関する事項…………… 13件
- ⑤学校教育関係事項…………… 6件
- ⑥表彰に関する事項…………… 1件
- ⑦その他教育委員会に関わる重要事項…………… 2件

※議案審議案件のほか、教育委員会に関わる事項95件について報告しました。

(4) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、下記のとおり会議・研修会、各種行事・大会、学校教育関係の活動に参加しました。

①会議・研修会

- ・平成24年度和歌山県市町村教育委員会連絡協議会定期総会（6月・和歌山市）
- ・平成24年度和歌山県都市教育委員長協議会（7月・岩出市）
- ・和歌山県市町村教育委員会連絡協議会夏季研修会（9月・白浜町）

②各種行事・大会

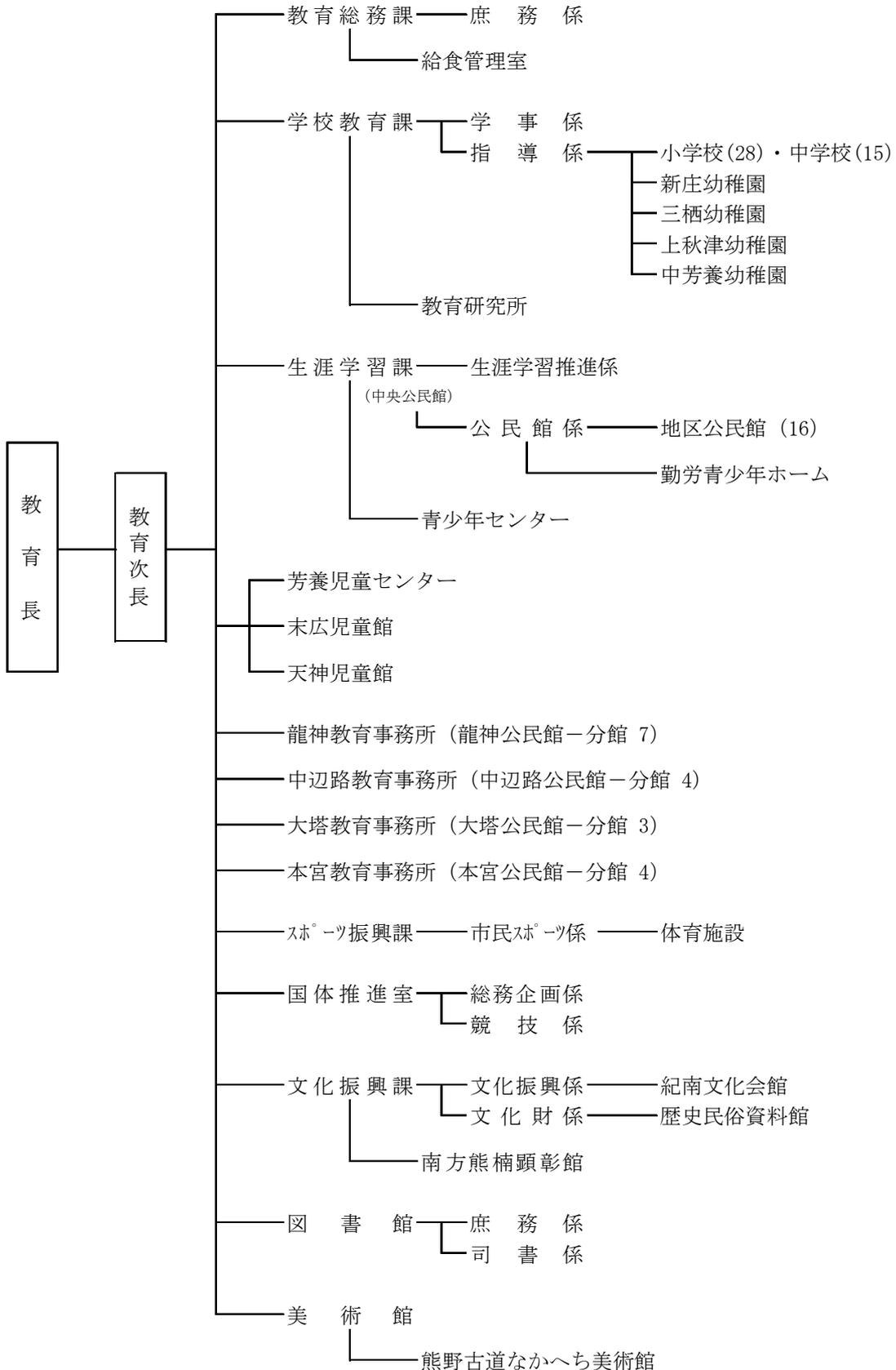
- ・子どもクラブ育成協議会総会（4月・市民総合センター）
- ・第22回南方熊楠賞授賞式（5月・紀南文化会館）
- ・カヌー阪本直也選手オリンピック出場激励会（上秋津農村環境改善センター）
- ・子どもクラブ夏の親善体育大会（6月・神島台グラウンド・上秋津若者広場）
- ・田辺市青少年育成市民会議総会（6月・市民総合センター）
- ・田辺市青少年育成市民大会（7月・紀南文化会館）
- ・第3回徳川御三家附家老サミット（7月・新宮市職業訓練センター）
- ・芳養地区納涼ちびっこ角力大会（8月・芳養児童公園）
- ・田辺市学社融合研修会（8月・紀南文化会館）
- ・第59回田辺市美術展覧会表彰式（10月・田辺市役所別館）
- ・田辺歴史民俗資料館開館記念式典（12月・田辺市文化交流センター）
- ・成人式記念式典（1月・紀南文化会館）
- ・新春田辺長距離走大会（1月・大塔水辺の楽校）
- ・田辺市民駅伝、田辺市子どもクラブ駅伝競走大会
（2月・大塔中学校グラウンドほか）
- ・田辺市スポーツ賞授賞式（3月・市民総合センター）

③学校教育関係

- ・平成24年度当初校長、教頭、園長会（4月・紀南文化会館）
- ・各小学校、中学校入学式（4月）
- ・小学校訪問（5月～11月・29校）
- ・中学校訪問（5月～11月・15校）
- ・幼稚園訪問（5月～7月・4園）
- ・夏季校長・教頭・園長・園主任会（8月・ひがしコミュニティセンター）
- ・第61回全国へき地教育研究大会和歌山大会（10月・紀南文化会館ほか）
- ・平成24年度和歌山県公立幼稚園研究大会（10月・新庄幼稚園）
- ・平成24年度和歌山県特別支援教育研究大会（11月・B i g - U）
- ・各小学校、中学校卒業式（3月）
- ・栗栖川小学校、二川小学校閉校式

◎教育委員会機構図

(平成25年4月1日現在)



平成24年度教育委員会活動実績一覧

月	会議・研修会	各種行事・大会	学校教育関係
4	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・子どもクラブ育成協議会総会 (市民総合センター)	・各小中学校入学式 ・校長・教頭・園長会 (紀南文化会館)
5	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・第22回南方熊楠授賞式 (紀南文化会館) ・カヌー阪本直也選手オリンピック出場 激励会 (上秋津農村環境改善センター)	・学校訪問(小学校) (中山路、龍神、近野、咲楽、伏菟野、 中芳養、田辺東部、長野、上芳養、二川) ・学校訪問(中学校) (本宮、上芳養、大塔、中芳養、中辺路、 近野) ・幼稚園訪問 (上秋津)
6	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 常任委員会(和歌山市) ・平成24年度和歌山県市町村教育委員会 連絡協議会総会 (和歌山市)	・子どもクラブ夏の親善体育大会 (神島台グラウンドほか) ・田辺市青少年育成市民会議総会 (市民総合センター)	・学校訪問(小学校) (稲成、本宮、新庄第二、田辺第三) ・学校訪問(中学校) (高雄、秋津川、長野) ・幼稚園訪問 (新庄、中芳養)
7	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・平成24年度和歌山県都市教育委員長 協議会 (岩出市)	・田辺市青少年育成市民大会 (紀南文化会館) ・第3回徳川御三家附家老サミット (新宮市職業訓練センター)	・学校訪問(中学校) (龍神) ・幼稚園訪問 (三栖)
8	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・芳養地区納涼ちびっこ角力大会 (芳養児童公園) ・田辺市学社融合研修会 (紀南文化会館)	・夏季校長・教頭・園長・園主任会 (ひがしコミュニティセンター)
9	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・和歌山県市町村教育委員会連絡協議会 夏季研修会 (白浜町)		
10	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・近畿市町村教育委員会研修会 (岸和田市)	・第59回田辺市美術展覧会表彰式 (田辺市役所別館)	・学校訪問(小学校) (芳養、三栖、富里、新庄、大坊、鮎川、 田辺第二、会津) ・学校訪問(中学校) (新庄) ・第61回全国へき地教育研究大会和歌山大会 (紀南文化会館ほか) ・平成24年度和歌山県公立幼稚園研究大会 (新庄幼稚園)
11	・定例教育委員会 (市民総合センター)		・学校訪問(小学校) (秋津川、上山路、田辺第一、栗栖川、 三里) ・学校訪問(中学校) (上秋津、東陽、衣笠、明洋) ・平成24年度和歌山県特別支援教育研究大会 (Big-U)
12	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・田辺歴史民俗資料館開館記念式典 (田辺市文化交流センター)	
1	・定例教育委員会 (市民総合センター)	・成人式記念式典 (紀南文化会館) ・新春田辺長距離走大会 (大塔水辺の楽校)	
2	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・臨時教育委員会 (市民総合センター)	・田辺市民駅伝、田辺市子どもクラブ 駅伝競走大会 (大塔中学校グラウンドほか)	
3	・定例教育委員会 (市民総合センター) ・臨時教育委員会 (市民総合センター)	・田辺市スポーツ賞授賞式 (市民総合センター)	・栗栖川小学校閉校式・二川小学校閉校式 ・各小中学校卒業式

平成24年度教育委員会審議案件一覧

議案番号	件名	審議日	分類
4定議案第1号	平成24年度国体準備室活動方針(案)について	平成24年4月11日	①
5定議案第1号	条例、規則の一部改正について (1) 田辺市体育施設条例の一部を改正する条例 (2) 田辺市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則	平成24年5月9日	②③
5定議案第2号	田辺市社会教育委員の委嘱について	〃	④
5定議案第3号	平成24年度田辺市学校評議員・幼稚園評議員の委嘱について	〃	④
6定議案第1号	田辺市立城山台学校給食センター運営委員会委員の委嘱について	平成24年6月20日	④
6定議案第2号	田辺市立美術館協議会委員の委嘱について	〃	④
7定議案第1号	田辺市立栗栖川小学校・二川小学校統合に係る校名について	平成24年7月18日	⑤
7定議案第2号	教育委員長の選挙について	〃	④
7定議案第3号	教育委員長職務代理者の指定について	〃	④
8定議案第1号	平成24年度9月補正予算見積について	平成24年8月8日	②
9定議案第1号	平成24年度教育委員会点検・評価報告書(案)について	平成24年9月12日	⑦
9定議案第2号	平成24年度「成人の日」記念式典について	〃	⑦
10定議案第1号	条例、規則の一部改正について (1) 田辺市立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例 (2) 田辺市教育委員会公印規則等の一部を改正する規則 (3) 田辺市体育施設条例の一部を改正する条例 (4) 田辺市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則 (5) 田辺市スポーツ賞表彰規程の一部を改正する規程	平成24年10月10日	②③
10定議案第2号	平成24年度社会功労者表彰について	〃	⑥
10定議案第3号	中辺路小学校の校歌について	〃	⑤
10定議案第4号	中辺路小学校の校章について	〃	⑤
10定議案第5号	田辺市スポーツ推進委員の委嘱について	〃	④
11定議案第1号	田辺市文化交流センター条例の一部の施行期日を定める規則について	平成24年11月14日	③
11定議案第2号	平成24年度12月補正予算見積について	〃	②
12定議案第1号	平成25年度当初予算の見積について	平成24年12月19日	②
12定議案第2号	平成24年度幼稚園、小・中学校の修了式及び卒業式について	〃	⑤
12定議案第3号	公民館長の辞任について	〃	④
2定議案第1号	条例、規則等の制定、一部改正等について (1) 田辺市修学奨学金貸与条例 (2) 田辺市修学奨学金貸与規則の一部を改正する規則 (3) 田辺市修学奨学生選考委員会規程を廃止する規程 (4) 田辺市立学校給食共同調理場条例の一部を改正する条例 (5) 田辺市立学校給食共同調理場条例施行規則の一部を改正する規則 (6) 田辺市ふるさと文化振興補助金交付審査委員会条例 (7) 田辺市美術展覧会運営委員会条例 (8) 田辺市美術展覧会運営委員会条例施行規則 (9) 公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分の承認を受けて積み立てた積立金に関する取扱要綱	平成25年2月13日	②③
2定議案第2号	平成24年度3月補正予算見積について	〃	②
2定議案第3号	平成25年度幼稚園、小・中学校の始業式及び入学式について	〃	⑤
2臨議案第1号	高雄中学校生徒の事故報告等について	平成25年2月25日	⑤
3臨議案第1号	教職員(管理職)人事異動の付議について	平成25年3月6日	④
3定議案第1号	平成25年度田辺市教育行政基本方針(案)について	平成25年3月13日	①
3定議案第2号	平成25年度各課活動方針(案)について	〃	①
3定議案第3号	田辺市立幼稚園授業料等の減免に関する規則の一部改正について	〃	③
3定議案第4号	田辺市社会教育委員の委嘱について	〃	④
3定議案第5号	田辺市公民館長の任命について	〃	④
3定議案第6号	田辺市生涯学習(人権)推進員の委嘱について	〃	④
3定議案第7号	田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画について	〃	①
3臨議案第2号	教職員(一般職)人事異動の付議について	平成25年3月20日	④

※分類番号は2頁の「(3)教育委員会会議での審議・報告状況」による。

平成24年度教育委員会報告事項一覧

報告番号	件名	報告日
4定報告第1号	平成24年3月議会について ・平成24年度当初予算について	平成24年4月11日
4定報告第2号	規則の一部改正について (1) 田辺市教育委員会事務局規則の一部を改正する規則	〃
4定報告第3号	平成24年度田辺市まちづくり学びあい講座について	〃
4定報告第4号	平成23年度学社融合実践集録について	〃
4定報告第5号	平成23年度生涯学習センター利用者数について	〃
4定報告第6号	平成23年度わかしお利用者数について	〃
4定報告第7号	「鼓童」講演の開催について	〃
4定報告第8号	「ブラジャーク・クワルテット」コンサートの開催について	〃
5定報告第1号	人事異動について	平成24年5月9日
5定報告第2号	「全国スポーツクラブ会議」について	〃
5定報告第3号	紀南ユネスコ協会 講演会について	〃
5定報告第4号	田辺国際交流協会 国際理解音楽公演会について	〃
5定報告第5号	文協フェスティバルの開催について	〃
5定報告第6号	NHK公開収録番組「ごきげん歌謡笑劇団」について	〃
6定報告第1号	平成24年度田辺市学社融合研修会について	平成24年6月20日
6定報告第2号	田辺市子どもクラブ育成協議会 第53回夏の親善体育大会について	〃
6定報告第3号	田辺市子どもクラブ育成協議会 第10回田辺市ドッジボール大会について	〃
6定報告第4号	平成24年度子どもの国際理解推進事業「ラッキー!!世界の迷信とお守り」について	〃
6定報告第5号	平成24年度田辺市PTA連合会の役員について	〃
6定報告第6号	「第3回徳川御三家附家老サミット」の開催について	〃
6定報告第7号	第36回市民体育祭について	〃
7定報告第1号	平成24年6月議会について ・一般質問について	平成24年7月18日
7定報告第2号	1学期の生徒指導状況について	〃
7定報告第3号	夏季休業中における園・学校教育関係行事について	〃
7定報告第4号	「田辺市夏季学社融合研修会」開催要項について	〃
7定報告第5号	第59回田辺市美術展覧会開催要項について	〃
7定報告第6号	関西二期会「ゴールデン・ガラ・コンサート」の開催について	〃
7定報告第7号	地域シンポジウムの開催について	〃
7定報告第8号	田辺市子どもクラブ育成協議会 第10回田辺市ドッジボール大会の結果について	〃
7定報告第9号	平成24年度子どもの国際理解推進事業「世界のボードゲームをPLAYしましょう!」について	〃
7定報告第10号	紀南ユネスコ協会「平和の鐘を鳴らしましょう」について	〃
7定報告第11号	平成24年度田辺市青少年育成市民会議の役員について	〃
8定報告第1号	平成24年度運動会の日程について	平成24年8月8日
8定報告第2号	田辺市まちづくり市民カレッジの開催について	〃
8定報告第3号	第15回西牟婁地方ドッジボール大会の結果について	〃
9定報告第1号	平成25年度田辺市修学奨学生募集について	平成24年9月12日
9定報告第2号	夏期休業中の園児・児童・生徒の状況について	〃
9定報告第3号	平成24年度田辺・西牟婁小学校水泳大会結果について	〃
9定報告第4号	「田辺市生涯学習推進計画」平成24年度実施計画について	〃
9定報告第5号	平成24年度生涯学習フェスティバルについて	〃
9定報告第6号	「少年メッセージ2012」和歌山県大会の結果について	〃

9定報告第7号	平成24年度和歌山県地域子ども集団親睦交流スポーツ大会（ドッジボール）の結果について	平成24年9月12日
9定報告第8号	第8回市民スポーツ・レクリエーション祭について	〃
9定報告第9号	紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会田辺市実行委員会設立発起人会及び実行委員会について	〃
9定報告第10号	田辺市文化協会20周年記念展「原鳳逸・廣島鋤和・牛尾武 作品展」及び田辺市文化協会20周年記念事業「日本音楽集団」の開催について	〃
9定報告第11号	会津小学校校舎建築事業について	〃
9定報告第12号	「いじめ」問題への取組について	〃
9定報告第13号	平成24年度全国学力・学習状況調査結果について	〃
9定報告第14号	通学路の安全点検状況について	〃
10定報告第1号	平成24年9月議会について ・工事請負契約の締結について ・平成24年9月補正予算について ・一般質問について	平成24年10月10日
10定報告第2号	学校開放月間の予定について	〃
10定報告第3号	わかしおの今後に係る提言について	〃
10定報告第4号	第55回関西実業団対抗駅伝競走大会について	〃
10定報告第5号	管理職選考検査（第一次）の結果について	〃
11定報告第1号	平成25年度財団法人小山育英会奨学生募集について	平成24年11月14日
11定報告第2号	平成24年度田辺・西牟婁小学校陸上競技大会及び田辺・西牟婁中学校新人総合体育大会の結果について	〃
11定報告第3号	平成24年度生涯学習振興大会について	〃
11定報告第4号	平成24年度生涯学習フェスティバルについて	〃
11定報告第5号	紀南ユネスコ協会「第17回 絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展について	〃
11定報告第6号	紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会田辺市実行委員会設立総会及び第1回総会の開催について	〃
12定報告第1号	平成24年12月議会について ・一般質問について	平成24年12月19日
12定報告第2号	栗栖川小、二川小学校閉校式及び中辺路小学校の開校式について	〃
12定報告第3号	中辺路小学校の校歌について	〃
12定報告第4号	田辺市修学奨学生選考結果について	〃
12定報告第5号	文部科学省 第65回優良公民館表彰について	〃
12定報告第6号	地域シンポジウム報告書について	〃
12定報告第7号	平成24年度生涯学習フェスティバルの結果について	〃
12定報告第8号	第8回市民スポーツ・レクリエーション祭について	〃
12定報告第9号	第87回新春初泳ぎ及び第29回新春初漕ぎについて	〃
12定報告第10号	第39回新春田辺長距離走について	〃
12定報告第11号	第17回田辺市民駅伝大会及び第30回田辺市子どもクラブ駅伝大会について	〃
12定報告第12号	『大阪交響楽団 名曲セレクション2013』の開催について	〃
12定報告第13号	第55回関西実業団対抗駅伝競走大会について	〃
12定報告第14号	第26回秘湯めぐり駅伝大会の結果について	〃
1定報告第1号	平成24年12月議会について ・条例の一部改正について (1) 田辺市立小学校及び中学校条例の一部を改正する条例 (2) 田辺市体育施設条例の一部を改正する条例 ・平成24年12月補正予算について	平成25年1月16日
1定報告第2号	社会教育委員会議 答申「平成25年度から平成29年度までの5年間にわたる『田辺市生涯学習推進計画』の後期基本計画策定のための基本的な考え方」について	〃
1定報告第3号	「田辺市生涯学習推進計画」後期基本計画（案）について	〃
1定報告第4号	平成24年度「成人の日」記念式典の結果について	〃

1 定報告第5号	「田辺市生涯学習推進計画」平成23年度実施計画実績報告について	平成25年1月16日
1 定報告第6号	第39回新春田辺長距離走大会の結果について	〃
1 定報告第7号	第12回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会出場について	〃
2 定報告第1号	第Ⅱ期 田辺市まちづくり市民カレッジ第7回講座について	〃
2 定報告第2号	第17回市民駅伝大会及び第30回田辺市子どもクラブ駅伝大会結果について	〃
2 定報告第3号	第37回市民なわとび大会について	平成25年2月13日
2 定報告第4号	第37回市民体育祭について	〃
3 定報告第1号	平成25年3月議会について ・平成24年度3月補正予算について ・一般質問について	平成25年3月13日
3 定報告第2号	平成25年度 年度当初校長・教頭・園長会について	〃
3 定報告第3号	退職校長並びに教頭への感謝状贈呈式について	〃
3 定報告第4号	平成25年度新規採用教職員辞令交付式について	〃
3 定報告第5号	学校教育課関係行事予定について	〃
3 定報告第6号	田辺市少年少女発明クラブについて	〃
3 定報告第7号	第12回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会について	〃
3 定報告第8号	平成24年度（第24回）田辺市スポーツ賞の選考結果について	〃
3 定報告第9号	第36回市民なわとび大会の結果について	〃
3 定報告第10号	第20回おおう生涯学習フェスタについて	〃

3. 教育委員会の点検・評価の概要

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することが義務付けられており、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされています。

田辺市教育委員会では、法の趣旨に則り、主要な施策・事業について、点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効率的・効果的な教育行政の一層の推進を図ってまいります。

(2) 実施方法等

教育委員会が平成 24 年度に実施した事務事業の執行状況等について、教育委員会内において点検及び評価を行うとともに、評価等の客観性を高めるため、教育に関し学識経験を有する方々による「田辺市教育委員会事務事業点検評価委員会」（以下「評価委員会」という。）からご意見等をいただき、その結果を報告書として取りまとめ、平成 25 年 9 月議会に提出してまいります。

(3) 点検・評価した事務事業

田辺市のまちづくりの指針として位置付けている第 1 次田辺市総合計画（平成 19 年 3 月策定）では、六つの柱（①人をはぐくむまち ②安心して暮らせるまち ③安全で住みよいまち ④活力みなぎる産業のまち ⑤快適な環境のまち ⑥市民と行政が共につくるまち）をまちづくりの基本方針として定めており、そのうち、教育委員会では「①人をはぐくむまち」について所管しております。

今回は、総合計画の基本方針（人をはぐくむまち）に基づく主要な施策（21 事務事業）について、教育委員会内において点検・評価を行い、評価委員会でご意見等をいただきました。

点検・評価した主要な施策	事務事業数
(1) 人を大切にするまちづくり ア. 人権意識の向上を図ります ①人権学習の推進	1
	小計 1
(2) 子どもをはぐくむまちづくり ア. 学校教育を充実します ①教育内容の充実 ②開かれた学校づくり ③健康の保持増進と学校給食の充実 ④教育環境の充実	1 1 1 1

イ. 青少年の健全育成を推進します ①健全育成活動の充実	2
	小計 6
(3) 文化のかおるまちづくり ア. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します ①郷土が生んだ偉人の顕彰	1
イ. ふるさと文化の振興を図ります ①芸術文化の振興・発展	2
ウ. 文化財を保護します ①世界遺産の保全・継承	1
②文化財の保存・整備	1
	小計 5
(4) 学びを支えるまちづくり ア. 生涯学習の振興を図ります ①学習機会の充実	1
②学社融合の推進	1
③学習環境の充実	1
④学びを通じた地域づくりの推進	2
イ. 生涯スポーツの振興を図ります ①スポーツ・レクリエーション支援体制の充実	1
②スポーツ・レクリエーション機会の充実	2
	小計 8
(5) 国際化に対応するまちづくり ア. 国際交流を推進します ①国際交流体制の充実	1
	小計 1
合 計	21

(4) 評価の観点

①成果と達成状況

事務事業の成果について、平成 24 年度において達成を目指す目標を示したうえで、達成状況を下記の A～D の 4 段階で評価しました。

(評価判断基準)

A：目標を超えて達成した

B：概ね目標を達成した

C：目標を下回った

D：目標を大きく下回った

②事務事業の課題

事務事業のニーズ、見直し、有効性及び効率性の観点から、それぞれ評価判定を行ったうえで事務事業の課題について総括しました。

(5) 総合評価の方法

事務事業評価シートの各項目に基づいて、教育委員会の各担当課が評価を行い、教育長及び教育次長が当該評価シートを精査した上で、総合評価としました。

4. 教育委員会に係る事務事業の点検・評価の結果について

(1) 総合評価の状況

教育委員会が実施した 21 の事務事業について点検・評価を行った結果、19 の事務事業については、概ね目標は達成したものと評価しています。

また、子どもをはぐくむまちづくりの「学校給食の実施」、学びを支えるまちづくりの「田辺市生涯学習推進計画後期基本計画策定」の 2 つの事務事業については、目標を超えて達成したと評価しました。

(達成状況の評価結果)

A 目標を超えて 達成した	B 概ね目標は 達成した	C 目標を 下回った	D 目標を大きく 下回った
2 (9.5%)	19 (90.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

(2) 事務事業の課題、取組

今回、点検・評価を実施した 21 の主要な事務事業の課題について、「事業ニーズの状況」、「見直しの必要性」、「有効性を高める必要性」、「効率性を高める必要性」の観点から判定したところ、事業ニーズについては、13 事務事業 (61.9%) において増加していると評価し、横ばいの状況にあるとした事務事業は 8 事務事業 (38.1%) でありました。

(事業ニーズの状況)

区 分	事業数	増 加	横 ば い	減 少
(1) 人を大切にするまちづくり	1	1	0	0
(2) 子供をはぐくむまちづくり	6	2	4	0
(3) 文化のかおるまちづくり	5	3	2	0
(4) 学びを支えるまちづくり	8	6	2	0
(5) 国際化に対応するまちづくり	1	1	0	0
合 計	21	13	8	0

また、事務事業の見直しの必要性が、なし又は当面なしと判定した事務事業は、18 事務事業（61.9%）、必要性があるとした事務事業は、8 事務事業（38.1%）となっています。事務事業の有効性と効率性については、17 事務事業（81.0%）について有効性を高める必要があるとし、また、15 事務事業（71.4%）について効率性を高める必要があると評価しています。

(見直しの必要性、有効性・効率性を高める必要性)

区 分	事業数	見直しの必要性			有効性を高める必要性			効率性を高める必要性		
		なし	当面なし	あり	なし	当面なし	あり	なし	当面なし	あり
(1) 人を大切にするまちづくり	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1
(2) 子供をはぐくむまちづくり	6	0	3	3	0	2	4	0	2	4
(3) 文化のかおるまちづくり	5	0	4	1	0	2	3	0	2	3
(4) 学びを支えるまちづくり	8	0	4	4	0	0	8	0	2	6
(5) 国際化に対応するまちづくり	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1
合 計	21	0	13	8	0	4	17	0	6	15

上記評価を踏まえて、各担当課では次ページ以降の事務事業評価シートにおいて、より一層効果を高めるための取組や効率的な実施方法などについて「課題の総括」として取りまとめ、今後の課題解決に向けた施策の方向性を示しております。

5. 事務事業評価シート

(1) 人を大切にするまちづくり

◎基本方針

人権を守り、互いに助け合い、明るく平和なまちを実現するため、広く日常生活の中に人権尊重の精神が脈打つ様な人権施策による取組を進め、人権意識の向上を図ります。

ア. 人権意識の向上を図ります

①人権学習の推進

- ・人権学習の推進

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第1節 人を大切にすまちづくり		
		1. 人権意識の向上を図ります		(1) 人権学習の推進		
事業名		人権学習の推進				
事業概要等	事業の目的	日本国憲法に保障された基本的人権が守られ、田辺市民憲章に示されている明るく平和なまちづくりを目指すため、市民と行政、公的機関、各種の組織・団体等が互いに協力し、生活の中にある人権に関わる全ての問題の解決に取り組み、学習を深めるための基本的な考え方や方針を策定する。また、それに基づいた教育・啓発を推進する。				
	事業の内容・現状	平成17年10月1日に、田辺市教育委員会において「人を大切にす教育」の基本方針を策定。これに基づき、具体的な実践を行うための計画である「人を大切にす教育」推進計画を策定し、各公民館を中心とした人権学習を展開している。実施にあたっては、各公民館長、主事、生涯学習（人権）推進員が中心となり、各公民館区ごとに各種団体・関係機関等の協力を得ながら、人権学習実行委員会を組織し、学習会の企画・運営等について協議を行うとともに、中央公民館、人権推進課等関係機関・団体との連携を図っている。平成24年度は、テーマを「防災と人権」に設定し、地域の状況も尊重しながら、地域の人権課題に応じた学習会を展開した。				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	教育基本法、社会教育法、田辺市教育基本方針				
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	300	760	報償費	950	国支出金
	決算額(千円)	388	950			県支出金 100
	事業の数値実績	H23年度	H24年度			地方債
	実施会場数	33	36			その他
	延べ参加人数	2,560	2,476			一般財源 850
				計	950	計 950
	上記以外のH24年度の実績	保護者学級を29の小学校で開催し、延べ5,590名が参加。				
	事業の目標	全ての公民館において人権学習会を年1回以上開催し、できるだけ多くの市民に参加してもらえるよう、内容の充実も図っていく。				
H23年度の課題に対する取組状況	東日本大震災や当地方の台風被害等々、防災に対する意識が向上しているなか、地域別人権学習会のテーマについても昨年同様「防災と人権」と設定した。主には災害弱者に視点をあてた学習会を実施した地域が多く、防災に対する住民の関心・意識もより一層の向上を見せるなか、参加者も多く、充実した学習会となった。					
目標に対する成果と達成状況	平成23年同様「防災と人権」を学習のテーマに設定し、東日本大震災や台風災害での教訓を生かした学習会を開催した。今回は主に災害弱者に視点をあてるなか、そのサポートや配慮、避難所運営方法等々からも「人権」についての認識を深めることができた。近年防災に対する住民の意識は高く、真剣に取り組む参加者が多いなか充実した学習会となった。			自己評価 (B) A : 目標を超えて達成した B : 概ね目標は達成した C : 目標を下回った D : 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	喫緊の課題である「防災」と災害時における「人権問題」についてより認識を深めるなど、一定の成果は得られているが、その他様々な視点からも人権問題の解決に結びつける人権学習会を各地域で取り組んでいく必要がある。人権学習の基本的な進め方については、今のところ現状のままで良いと考えるが、住民参画による実行委員会での十分な話し合いによる企画・立案と、幅広い参加者を得るための創意工夫が求められている。興味関心や当事者意識を持ってもらえるようなテーマ設定を行う必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	「防災と人権」を学習テーマに設定し、災害弱者に視点をあてた「人権」についての学習が図られた。更に実行委員会でも充分協議し、幅広い参加者を得るよう創意工夫されたい。				評価 【 B 】 前年度評価 (B)	

(2) 子どもをはぐくむまちづくり

◎基本方針

「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体とたくましい体力」のバランスがとれた園児・児童・生徒の育成を目指した教育課程の編成と教育活動の充実を図るとともに、学校施設等の整備や学校給食の充実、学校環境衛生の向上に取り組みます。

また、学校・家庭・地域の連携を図りながら、青少年の健全育成を推進します。

ア. 学校教育を充実します

①教育内容の充実

- ・教育内容の充実のための事業

②開かれた学校づくり

- ・開かれた学校づくり推進事業

③健康の保持増進と学校給食の充実

- ・学校給食の実施

④教育環境の充実

- ・学校施設整備事業

イ. 青少年の健全育成を推進します

①健全育成活動の充実

- ・児童館活動
- ・子どもクラブ育成事業

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		学校教育課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり		
		1. 学校教育を充実します		(1) 教育内容の充実		
事業名		教育内容の充実のための事業				
事業の概要	事業の目的	中央教育審議会答申の考え方を生かし、「質の高い教師による、質の高い教育」を保証し、『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』のバランスがとれた児童生徒の育成を目指す。				
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・「田辺市学校教育指導の方針」として「6つの方針と50の留意点」を校長・教頭会、学校訪問等あらゆる機会を捉えて教職員へ周知を図る。(①学校運営体制を確立する。②確かな学力を育てる。③豊かな心を育てる。④健やかな体とたくましい体力を育てる。⑤生徒指導を充実して子どもたちが楽しく学べる学校をつくる。⑥学社融合を推進する。) ・各校では、これまでの全国学力学習状況調査や体力テストの結果分析の活用、言語力の育成、理数教育の充実、国際理解教育の推進、人を大切にする教育の充実、不登校問題への対応、学校評価研究、特別支援教育の推進等、教育内容充実のための様々な取組を実施している。 ・学校教育推進の2本柱として「基礎基本の徹底」と「学社融合の推進」を掲げ、教育実践の焦点化を図っている。 ・教育活動の深化、充実を図るため「市指定教育研究事業」として、市内の小中学校の中から2校を研究指定している。(田辺東部小学校・衣笠中学校) 				
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input checked="" type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領等				
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	815	604	報償費	285	国支出金
	決算額(千円)	815	585	委託料	300	県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度			地方債
	市指定研究校数	2校	2校			その他
						一般財源
			計	585	計	
					585	
	上記以外のH24年度の実績					
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校29校・中学校15校・幼稚園4園の学校・園訪問を実施して教育課程の実施状況等について協議する。 ・定例校園長会、教頭会で学校経営や教育課題等についての研修を行う。 ・「市指定教育研究事業」をとおして実践的な教育研究に取り組み、その成果を市内の各校に普及させる。 				
	H23年度の課題に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の内容については、学校訪問や校長会・教頭会・教務主任会等、様々な機会をとおして周知を図った。 				
	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・定例学校訪問については、5月～11月の期間で実施した。 ・定例校園長会、教頭会では、毎回、研修テーマを設定し、教育委員会からの説明、提案、協議等を行った。 ・市指定教育研究事業では、田辺東部小学校、衣笠中学校を指定し、研究テーマを定め取組をスタートさせた。 		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<ul style="list-style-type: none"> ・定例学校訪問、校園長会・教頭会については、計画的に実施し、より有効性、効率性を高めるように実施していく。 ・研修会等、様々な機会を通して新教育課程の内容を踏まえた取り組みの充実に努める。 	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
総合評価(教育長・次長)	学校訪問、校園長会、教頭会など様々な機会を捉えて、基礎基本の徹底と学社融合推進の2本柱の周知を図っているが、管理職から各現場の末端への情報伝達等について創意工夫が必要である。				評価 【 B 】 前年度評価 (B)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		学校教育課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり			
		1. 学校教育を充実します		(2) 開かれた学校づくり			
事業名		開かれた学校づくり推進事業					
事業の概要等	事業の目的	参観日や学校開放月間に、子どもの学習活動の様子を保護者や地域住民に公開するなどして、地域の学校に対する関心を高め、支援や協力が得られるようにする。また、学校評議員会の開催や学校評価の実施をとおして、自校の教育活動に生かすようにする。					
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日や学校開放月間を通して、積極的に学習活動の様子を保護者や地域住民に公開する。 ・生涯学習フェスティバル開催時に、各学校の「学社融合の取組」をパネル展示して、市民に広報する。 ・学社融合のさらなる推進と開かれた学校づくりを目指して、上山路小学校・龍神地区公民館に市の研究指定を行う。また、地域共育コミュニティ事業（本宮小・三里小・本宮中・本宮公民館）（栗栖川小・二川小・中辺路公民館）（新庄中・新庄公民館）（田三小・西部公民館）に取り組む。 ・各学校で学校評価を実施し、結果を保護者や地域に説明するとともに、次年度の教育活動に生かす。 ・年間3回以上、各学校において学校評議員に意見を聞き、学校評価結果とあわせて、学校経営に生かす。 					
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input checked="" type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	教育基本法、学校教育法施行規則					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	1,974	1,902	報償費(学校評議員謝金)	1,516	国支出金	
	決算額(千円)	1,974	1,816	報償費(学社融合講師謝礼)	150	県支出金	
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	委託料(学社融合委託料)	150	地方債	
	学校評議員数	163人	161人			その他	
	学社融合指定研究校数	1校	1校			一般財源	1,816
				計	1,816	計	1,816
	上記以外のH24年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各園、各学校において参観日、学校開放月間の取組を行う。 ・市の生涯学習フェスティバルで、「学社融合活動」のパネル展示を行う。 ・学社融合の市指定研究（上山路小・龍神地区公民館）、地域共育コミュニティ事業（本宮小・三里小・本宮中・本宮公民館）（栗栖川小学校・二川小・中辺路公民館）（新庄中・新庄公民館）（田三小・西部公民館）を実施する。 ・園・学校評価結果を学校経営に反映させる。 ・学校評議員会を開催し、学校の特色づくりに向けて、地域の協力を得る。 					
	H23年度の課題に対する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会の活性化を図るため、各園・学校では、説明や協議だけでなく、授業等を参観していただきながら様々なご意見をいただいた。 ・園・学校評価の評価項目の確認や文章表現の見直しを図った。 					
	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参観日や学校開放月間時に地域の人材等を生かした学習活動を公開した。 ・市の生涯学習フェスティバル開催時に「学社融合の活動」のパネル展示で学校、園の取組を報告した。 ・学校評価や学校評議員会を通して保護者、地域の意向を把握し、学校経営に生かした。 		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況		課題の総括			
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日や学校開放月間を通しての授業公開や生涯学習フェスティバルでの展示発表については、地域の人材等を活用しながら更に内容の充実を図る。 ・学校評議員会の開催についても、様々な分野からご意見をいただけるよう、会の持ち方をさらに工夫していく。 		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	学社融合については、指定研究を通じて着実に拡大定着しており、地域の歴史や文化を大切にしようとする態度が芽生えてきた。一方、学校評議員会の活性化に工夫が必要である。				評価 【 B 】 前年度評価 (A)		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		給食管理室			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目	第1章 人をはぐくむまち	第2節 子どもをはぐくむまちづくり					
	1. 学校教育を充実します	(3) 健康の保持増進と学校給食の充実					
事業名	学校給食の実施						
事業の概要等	事業の目的	児童及び生徒の心身の健全な発達を目指して学校給食の充実を図る。					
	事業の内容・現状	小中学校及び幼稚園において、衛生的で安全な学校給食を実施し、学校給食を通して子どもの健全な心身の発達を図る。 ◎小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・単独校調理場7小学校 児童数282名 (6.7%) ・共同調理場22小学校 児童数3,903名 (93.3%) (うち城山台学校給食センター12校 児童数3,072名 (73.4%)) ◎中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・単独校調理場2中学校 生徒数179名 (8.2%) ・共同調理場13中学校 生徒数2,004名 (91.8%) (うち城山台学校給食センター6校 生徒数1,441名 (66.0%)) ◎幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・共同調理場(城山台学校給食センター) 4幼稚園 園児数125名 (100%) 					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	学校給食法					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	514,677	510,472	賃金	83,440	国支出金	
	決算額(千円)	496,446	497,290	需用費	283,455	県支出金	
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	委託料	121,271	地方債	
	給食実施率	100%	100%	工事請負費		その他	246,462
	児童生徒給食費収納率	98.51%	99.14%	その他	9,124	一般財源	250,828
				計	497,290	計	497,290
	上記以外のH24年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	①市内全幼小中での学校給食の実施する。 ②文部科学省「学校給食衛生管理基準」を踏まえ、学校給食関係者の衛生管理意識の向上を図るとともに、給食施設・設備の改善に努める。 ③地域の生産者との連携を図り可能な限り地元食材を使用し、地産地消に努める。					
	H23年度の課題に対する取組状況	栄養士等と連携し、衛生管理基準の周知徹底を図るため研修会を実施した。三栖調理場の手洗い設備改修や長野調理場の壁・天井の改修、中辺路調理場の水道設備修繕他、調理場の衛生環境の向上、施設設備の改善を図った。地産地消では、引き続き生産者と連携し地場産物の利用推進を図るなど、各地で推進に取り組んだ。食の安全については、保護者の意見を踏まえ食肉の細菌検査を二箇所で行った。納付率向上については、城山台において、引き続きセンター・学校間の情報共有を図り、日頃から未納を放置しない取組を進めるとともに、12月に一斉催告書を送付し、納付の働きかけを行った。また、納付の働きかけを行う際には、児童手当からの差引徴収に係る同意書提出の働きかけも併せて実施し、子ども手当及び児童手当から5,809,225円(現年:1,696,680円、過年:4,112,545円)の差引徴収を行った。					
	目標に対する成果と達成状況	調理従事者に対し研修等を通じて衛生管理基準の周知を図り、理解の促進を図った。施設設備の改善については老朽施設設備が多く、衛生管理基準に適合させるには困難な点が多いが可能な範囲で取り組んだ。地産地消については生産者と連携し、安定的な利用が図れた。給食費納付率については、城山台と学校が連携した取り組みをすすめるとともに、児童手当からの差引徴収を実施し、99.14%に上昇した。		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	学校給食については食育の観点からも事業の必要性は減少することはない。地産地消は子どもが地場産の食材を通じて地域の自然や文化、産業等に関する理解を深め、その生産等に携わる者への感謝の念を育む点で重要な役割を果たしており、給食を「生きた教材」として有効に活用するためには、生産者・関係部局とのいっそうの連携が必要。食材規格、確認方法等については、食を取り巻く様々な情報に基づき、常に検討改善を行うことが必要。学校給食調理場の運営方法、再編等については学校統廃合等の検討と連携した検討が必要。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	地産地消については、関係機関や生産者と連携し、消費拡大に努めた。また、収納対策については、大変努力し、収納率が大幅に向上した。				評価【A】		
					前年度評価(A)		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		教育総務課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり			
		1. 学校教育を充実します		(4) 教育環境の充実			
事業名		学校施設整備事業					
事業概要等	事業の目的	学校施設は、児童生徒の学習・生活の場として、豊かな人間関係を育むための教育環境として重要な意義を持つとともに、災害時には地域住民の避難場所としての役割をも果たすことから、その整備充実並びに安全確保を目的として本事業を実施するものである。					
	事業の内容・現状	①老朽校舎等の建築事業 田辺第二小学校校舎の建築を行うとともに、会津小学校校舎建築の設計等に着手する。 ②学校耐震化事業 耐震二次診断の結果（耐震化が必要な学校：小学校14校、中学校4校）を踏まえて、学校施設の早期耐震化を図る。 ③その他施設整備事業 小学校29校、中学校15校の学校施設について、緊急性や教育環境の改善の観点から各種改修・修繕等を実施する。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	地震防災対策特別措置法、義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	1,302,382	1,077,909	賃金・旅費・需用費	302,718	国支出金	209,051
	決算額(千円)	1,280,602	1,068,238	役務費・委託料	111,481	県支出金	3,168
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	使用借料	85,286	地方債	476,700
	老朽校舎等の建築	2	—	工事請負費・原材	562,264	その他	2,330
	耐震化率	77.4%	82.0%	備品購入費・負担金	6,489	一般財源	376,989
	耐震補強設計	3校	2校	計	1,068,238	計	1,068,238
	上記以外のH24年度の実績	・栗栖川小、二川小統合による(新)中辺路小校舎・体育館の改修 ・平成23年度台風12号による上芳養小プール及び本宮小校舎等の災害復旧工事					
	目標と達成状況	事業の目標	①老朽校舎等の建築事業 田辺第二小学校校舎の建築を実施し、会津小学校校舎建築に係る設計等に着手する。 ②学校耐震化事業 平成20年度に完了した耐震二次診断の結果を踏まえ、耐震性の低い校舎、体育館から耐震補強設計等、耐震化に向けた取組を計画的に実施する。 ③その他施設整備事業 学校施設の各種改修・修繕等について、効率的、効果的に実施する。				
H23年度の課題に対する取組状況		課題であった会津小学校校舎の建替えに着手することができた。また、学校耐震化については、耐震性が低いIs値（構造耐震指標）0.3未満の学校施設から計画的に着手している。					
目標に対する成果と達成状況		①老朽校舎等の建築事業 田辺第二小学校校舎建築工事及び会津小学校校舎建築に係る建築設計等に着手した。 ②学校耐震化事業 (小学校)芳養小(A棟)、龍神小校舎、稲成小体育館耐震改修工事、田東小体育館、中辺路小校舎耐震設計 (中学校)高雄中学校耐震設計 ③その他施設整備事業 通常の施設修繕等に加えて、学校統合後の校舎となる中辺路小学校の改修・整備を行うとともに危険遊具の修繕等施設環境の充実に努めた。				自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った	
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	近年、住民の防災意識が高まり、学校耐震化についても、老朽校舎の改築や学校統合等との調整を図りながら早期耐震化に向けて計画的に進める必要がある。また、学校施設の経年劣化に伴い、修繕箇所が増加傾向にあり、効率的、効果的な改修を図る必要がある。 学校施設は、教育環境としての機能に加え、地域コミュニティの拠点や災害時の避難場所としての役割を有するなど地域の社会資本として有効に活用することが求められ、厳しい財政状況の中で効果的、効率的、計画的に整備していくことが大きな課題である。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	今後も計画的に耐震化を実施していく必要がある。					評価【B】 前年度評価(B)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名	児童館				
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち	第2節 子どもをはぐくむまちづくり				
		2. 児童生徒の健全育成を推進します	(2) 健全育成活動の充実				
事業名		児童館活動					
事業概要等	事業の目的	学校・家庭・地域社会と連携を図り、地域における子どもの安全確保と健全育成の場として子どもの居場所づくりに努める。各種活動や遊びを通して、健康を増進し情操を豊かにすることを目的とする。					
	事業の内容・現状	1. 子どもを育成する活動 2. 子育て家庭を支援する活動 3. 地域活動を推進する活動 4. 人権教育総合推進事業 上記の4点を重点目標に掲げ、子どもを対象とした文化・スポーツ活動・学習活動等の講座や教室を開催するとともに、子どもが安心して遊べる場、「居場所」の提供を行っている。 また、保護者を対象に子育て講演会等の開催や教育相談日の開設、特に乳幼児の保護者に対しては子どもや保護者の交流の場フリースペースちびっこを開設しており、子育て支援のための事業を実施している。また、学校や隣保館、地域の各種団体と連携し、地域で子どもを守り育てる活動・ネットワークづくりを児童館が中心的な役割を持ちながら積極的に進めています。また、県教育委員会の人権教育総合推進事業の補助を受け、地域の子どもの基礎学力向上、基本的生活習慣の確立のため活動に取り組んでいる。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	児童福祉法					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	4,702	4,682	旅費	41	国支出金	
	決算額(千円)	4,237	4,051	報償費	2,462	県支出金	900
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	需用費	1,171	地方債	
	開館日数	299	294	使用料	354	その他	
	児童館利用人数	31,635	35,364	備品購入費	23	一般財源	3,151
				計	4,051	計	4,051
	上記以外のH24年度の実績						
	目標と達成状況	事業の目標	子どもが自主的・主体的に活動ができるよう環境を整え、豊かな遊びや体験活動を通して、子どもどうしの交流を深め、心身ともに健やかな子どもを育てる。また、学校や地域の各種団体と連携し、地域ぐるみで子育て、子育てを支援する取り組みを進める。				
H23年度の課題に対する取組状況		毎月の児童館だよりや田辺市のホームページ掲載など校区全体に情報を発信しており、多くの子どもが児童館活動に参加している。また、乳幼児と保護者を対象にフリースペースちびっこ(就学前の乳幼児や保護者の交流の場)を開設しており、市の広報や情報誌等を通じて利用を呼びかけている。また、地域にある市の施設と連携しながら町内会や関係団体と共にフェスティバルや児童館祭り、敬老行事等に取り組むと共に子育て、子育ての支援活動に取り組んでいる。					
目標に対する成果と達成状況		放課後や休日に定例活動や行事等を実施することができ、多くの子どもが児童館活動に参加しています。また、子どもが安心して遊べる場「居場所」として、親の意識に定着しつつあります。乳幼児と保護者を対象にしたフリースペースちびっこは、保護者どうしの交流や憩いの場となっている。		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	子どもを取巻く社会状況は著しく変化し、少子化の問題、児童虐待の問題、いじめや登校拒否問題など様々な問題が山積しています。子育ては子どもを持つ親だけではどうにもならないといった状況もあり、地域ぐるみで、子育て・子育てを支援する取組(学社融合)が、今後益々重要になってきます。児童館のもつ健全育成機能を充分に生かした取組を進めることが大切であり、地域の拠点として児童館が中心的な役割を果たす中で、関係機関と連携しながら今後より積極的に推進していくことが大切です。また、これまでの取組により地区の子どもの学力課題については一定の成果を上げてきましたが、乳幼児期の生活習慣の未確立からくる弱さをもった子どもも多く、学力が中・低位に集中しており、校区全体を視野に入れながら今後も児童館活動の中で取組む必要があると考えます。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	校区全体に情報発信し、子育て支援活動に取り組んでいるが、未就学の乳幼児や保護者の交流の場(フリースペース)の利用促進の工夫とともに、家族の子育て、家族の役割を自覚させるような取組が必要である。				評価 【B】 前年度評価 (B)		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子供をはぐくむまちづくり		
		2. 児童生徒の健全育成を推進します		(2) 健全育成活動の充実		
事業名		子どもクラブ育成事業				
事業の概要等	事業の目的	地域活動を中心とした子どもクラブ活動を発展させることにより、豊かな体験を通して自主性・社会性を育て連帯意識を高め、心身ともに健全な子どもの育成をめざす。また、学校・家庭・地域の連携を深めながら、地域ぐるみの教育活動や家庭教育の充実を図り、保護者相互の交流を図る。				
	事業の内容・現状	【子どもクラブ育成事業】 主要8行事を実施。(2050人参加) 6月9・10日 夏の親善体育大会【ソフト・キック】(373人参加) 7月8日 ドッジボール大会(522人参加) 8月夏休み中 親子野外映画教室 10月14日 市民親子ハイキング(親子100人参加) 10月21日 親子キンボール交流会(139人参加) 12月4日 親子バスケットピンポン大会(201人) 2月12日 駅伝大会(579人参加) 3月4日 研修大会(子ども43人・大人93人)				
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	1,100	1,100	委託料	1,100	国支出金
	決算額(千円)	1,100	1,100			県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度			地方債
	①主要8事業参加者	2,127人	2,050人			その他
						一般財源
				計	1,100	計
						1,100
上記以外のH24年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	・主要8行事を実施する。(体育事業、文化事業) ・行事の実施により、各単位クラブの活動を活性化させ、地域ぐるみの子育てを図る。				
	H23年度の課題に対する取組状況	ドッジボール大会や親子キンボール交流会など、子どもたちが活躍できる様々な機会を提供することにより、単位クラブでは地域の実情に合わせた活動を展開し、地域ぐるみの子育てへ繋げる。				
	目標に対する成果と達成状況	・主要事業については、概ね予定どおり開催している。 ・ドッジボール大会の参加チームの増加(30チーム→32チーム)や親子キンボール交流会の参加者増(105人→139人)から、地域の実情に合わせ、大会に向けて各単位クラブの取組が積極的に行われており、子どもクラブの活動の活性化と併せて、地域ぐるみの子育てに役立っている。			自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った	
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	ドッジボール大会や親子キンボール交流会など、小規模校でも参加できる取組の普及を進めるとともに、50回以上の開催実績があるが、近年、参加者、参加チームが減少傾向にある夏の親善体育大会の見直しを図るなど、地域の実情に応じて取組が積極的に行われ、地域ぐるみの子育てに繋がるよう、行事の検討を行う。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
総合評価(教育長・次長)	小規模校も参加できる大会を普及させ、一定の成果が出ているが、既存の事業についても見直しが必要である。					
					前年度評価(B)	

(3) 文化のかおるまちづくり

◎基本方針

郷土にゆかりのある偉人を広く社会に顕彰し、その功績を後世に伝えるとともに、先人の功績や郷土の歴史・伝統を学ぶ機会や資料の提供に努めます。

また、図書館と歴史民俗資料館を併せた田辺市文化交流センターをはじめ、美術館や紀南文化会館などを中心に文化施策を展開するとともに、市民の文化活動を支援することにより、個性と魅力のあるふるさと文化の振興を図ります。

さらに、世界遺産である熊野参詣道、熊野本宮大社に代表される文化遺産及び文化的景観の保全をはじめ、多くの文化財の保護・継承に取り組みます。

ア. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します

①郷土が生んだ偉人の顕彰

- ・南方熊楠翁を学ぶ機会の充実

イ. ふるさと文化の振興を図ります

①芸術文化の振興・発展

- ・田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の実施
- ・美術館運営事業

ウ. 文化財を保護します

①世界遺産の保全・継承

- ・世界遺産保全事

②文化財の保存・整備

- ・文化財保存・整備、調査・研究、普及・顕彰事業

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名	南方熊楠顕彰館			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち	第3節 文化のかおるまちづくり			
		1. 郷土の歴史を学び、後世へ伝承します	(1) 郷土が生んだ偉人の顕彰			
事業名		南方熊楠翁を学ぶ機会の充実				
事業概要等	事業の目的	熊楠翁の偉業を広く社会に顕彰し、更に後世に伝えていくために、南方熊楠顕彰館を拠点とし、田辺市民はもとより、県内外、世界の人々が熊楠翁の業績や実像に理解を深めることができるよう顕彰事業に官民協働で取り組み、地域発展に寄与する。				
	事業の内容・現状	(1) 南方熊楠顕彰館の運営及び南方熊楠邸及び所蔵資料の公開 邸宅及び貴重な研究資料等を保存・管理し、学術振興と教育的配慮の下、公開を行う。 (2) 顕彰事業の推進 関係機関と連携し、展示会、講演会等の事業を推進し、南方熊楠や田辺・熊野についての学習機会の提供と情報発信を展開し、市民及び全国に向けた顕彰事業を積極的に推進する。 (3) 所蔵資料の保存管理・調査研究 邸宅及び研究資料等を保存し、外部研究機関等と連携を図るとともに、資料の調査・整理を行い、南方熊楠に関する研究を推進し、その成果を広く情報発信する。				
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	南方熊楠顕彰館条例、同施行規則				
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	7,100	7,020	翁顕彰事業委託料	7,020	国支出金
	決算額(千円)	7,100	7,020			県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度			地方債
	来館者数	8,097	7,734			その他
	授業、研修受入	792(30件)	1,162(37件)			一般財源
催事参加者	2,669	962	計	7,020	計	7,020
展示観覧者	5,954	5,629	委託先事業費補填	(92)	委託先自主財源(南方熊楠顕彰会)	(92)
上記以外のH24年度の実績	団体見学：662名(31件) 取材・視察：79件 資料閲覧：45件 マスコミ・出版掲載等：181件 ホームページ：62,231件 ブログ：15,782件					
目標と達成状況	事業の目標	①学習機会と場の提供(月例展・特別企画展、講演会、イベント等の実施) ②南方邸及び所蔵資料の保存、修繕 ③所蔵資料の活用、調査研究(外部研究機関との共同調査含む) ④出版活動(自筆資料の翻刻出版<資料叢書刊行>、読み物としての機関誌発行等) ⑤各種メディア、ウェブを通じての情報発信等				
	H23年度の課題に対する取組状況	「地域の子供たち」、「地元への啓発活動」の強化を意識し、「学習機会の充実」に取り組むため、学校の社会見学等を受け入れ、その学校の地域の話題を織り交ぜて話をした。また、顕彰館・南方邸だけでなく、「熊楠ゆかりの地」を関連づけたパンフを作成し、まち歩きできるようなパンフを作成するとともに、観光協会、田辺観光ボランティアガイドの会、田辺市熊野ツーリズムビューロー、紀南文化財研究会などの機関との連携も図っている。				
	目標に対する成果と達成状況	①来館者7734人(95.5%)、団体見学31件(100%)、授業・研修受入37件(123%)、視察41件(141.4%)、催事参加者962人(36.0%※H23は共催事業含む)、展示観覧者5,629人(94.5%) ②資料修繕8点 ③資料閲覧45件(77.6%)、若年研究者助成事業2件 ④機関誌「熊楠ワークス」の発行、その他書籍発行に協力多数 ⑤取材38件(66.7%)、出版・報道・放送181件(91.9%)、ホームページ62,231アクセス(84.4%)、ブログ15,782アクセス(73.4%) ()は前年度比			自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った	
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	熊楠研究者の減少、高齢化に伴い、若手の補充が課題となっており、一方、地元でも熊楠を支える人材育成をしていく必要がある。 平成25年度は田辺観光協会の観光庁支援事業「文化の香りの城下町・口熊野田辺観光活性化事業」に協力し、広く田辺のまち、南方熊楠をPRし、落ち込んだ来館者の回復を目指す。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)		情報発信については、市外からの来訪者も多く、一定の成果が出ているが、広く市民が来館出来るような啓発の工夫が必要である。また、顕彰事業を継続していくためにも、研究者をはじめとする人材育成が必要である。				評価【B】
						前年度評価(B)

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		文化振興課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 文化のかおるまちづくり			
		1. ふるさと文化の振興を図ります		(1) 芸術文化の振興・発展			
事業名		田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の実施					
事業概要等	事業の目的	田辺市を中心とする紀南地域の芸術文化の振興を図るため、鑑賞力と愛好心を培い、創作意欲を盛んにして芸術水準の向上に努めるとともに、優れた芸術を鑑賞する機会、文化芸術団体の公演・発表の場を提供する。					
	事業の内容・現状	・第59回市展の開催（会場 紀南文化会館） 第1期：10月5日～7日 書・彫塑・生花 第2期：10月12日～14日 洋画・写真・陶芸・日本画・工芸 ・文化事業の実施（会場 紀南文化会館他） 5月28日「鼓童」 6月5日「ブラジャーク・クワルテット（弦楽四重奏）」 6月11日NHK公開番組「ごきげん歌謡笑劇団」 7月21日「中国杭州雑技団」 9月2日「オペラ・ガラ・コンサート」 2月10日「大阪交響楽団」					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等						
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	19,193	18,216	報償費・旅費	858	国支出金	
	決算額(千円)	16,306	17,370	需用費・役務費	1,910	県支出金	
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	委託料	9,810	地方債	
	市展出品数	201	201	使用料及び賃借料・備品購入費	3,892	その他(助成金・入場料他)	8,278
	市展入場者数	4,723	4,647	負担金補助及び負担金	900	一般財源	9,092
			計	17,370	計	17,370	
上記以外のH24年度の実績	○文化事業チケット販売枚数：鼓童(594)、ブラジャーク・クワルテット(126)、中国杭州雑技団(729)、オペラ・ガラコンサート(242)、大阪交響楽団(733) ○文化事業入場者数：NHK公開収録番組「ごきげん歌謡笑劇団」(1055) 総計 3479人 【H23実績 4066人】						
事業の目標	広報紙・広告・HP・ポスター・チラシ等PRに注力し、来場者の増加に向け取り組む。						
H23年度の課題に対する取組状況	文化事業については、引続き託児所の開設及び朝刊折込広告をするなど、きめ細やかなPRと足を運びやすい環境づくりに努めた。また、助成事業の活用や、宝くじ公演を実施するなど、経費を抑えながらも幅広い年代、幅広い嗜好に対応できるような公演を実施した。 市展については、旧町村からの出品を増やすため、移動展を開催できないか企画検討委員会（市展審査員で構成）で検討し、第60回を記念して、先ず龍神地域で開催することに決定した。						
目標に対する成果と達成状況	文化事業については、集客に結びつく可能性のあることは引き続き行ったが、前年度に比べ公演本数も1本少なかったため、総入場者は約580人減少した。平成20年度から毎年開催している「大阪交響楽団」については、安定的な入場者があるなど固定ファンが定着してきている。 市展については、旧町村からの出品数は前年と同数(12点)で、入場者は76人減の4,647人とほぼ横ばいであった。			自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	文化事業を実施するにあたり、クラシックや伝統芸能等芸術性の高いものに対する市民ニーズを把握し、手頃な料金で提供できるよう努める。併せて、学生を対象としたアウトリーチを実施し、将来のファンを増やすよう努める。 市展では、今後とも出品数、来場者数の拡大を目指し、各教育事務所や行政局とも連携し、PRや啓発に注力するとともに、移動展の盛会に向け取り組む。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価（教育長・次長）	市展については、今後も旧町村からの出品を増やす工夫が必要である。文化事業については、芸術性の高いものを提供するとともに広報等を充実していく必要がある。				評価【 B 】		
					前年度評価 (B)		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		美術館		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第2節 子どもをはぐくむまちづくり		
		2. ふるさと文化の振興を図ります		(1) 芸術文化の振興・発展		
事業名		美術館運営事業				
事業の概要等	事業の目的	田辺・紀南地方の文化の拠点となる施設として、特別展・館藏品展の開催や生涯学習時代に対応した各種活動を展開し、質の高い芸術文化に触れる機会を提供する。また、文化財（美術作品）及びそれに関する資料、史料の収集保存並びに、調査研究を行い、刊行物等を通じて広く紹介、美術作品を後世に継承し、それに親しむ場と学びの機会を提供する。				
	事業の内容・現状	展覧会については、4月から7月にかけて田辺市立美術館（本館）と熊野古道なかへち美術館（分館）の共催、同時開催で特別展を開催、その他本館では「没後30年 朝井閑右衛門展」など特別展3本と小企画展1本の計4展覧会を計画、開催した。分館では本館との共催展の後、夏の特別展を開催、その後9月末から4ヶ月間改修工事等による臨時休館を行い、工事終了後の2月から特別展1本を開催した。作品収集活動については、収集方針に基づき美術作品（又は関連資料）の購入、又は寄贈及び寄託作品の積極的な受入れを図った。				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	博物館法				
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	27,290	27,198	報償費、旅費	1,647	国支出金
	決算額(千円)	19,926	19,629	需要費、役務費	1,615	県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	委託料	16,367	地方債
	年間入館者数(本館)	11,096人	7,831人			その他
	年間入館者数(分館)	3,543人	2,996人			一般財源
合計	14,639人	10,827人	計	19,629	計	19,629
上記以外のH24年度の実績	美術館開放講座（分館）にてヴァイオリンコンサートを開催。					
目標と達成状況	事業の目標	・本館、分館それぞれ年間150日以上展覧会開催及び教育普及事業としての講演会などの開催 ・図録等刊行物の発行 ・年間1点以上のコレクションの追加				
	H23年度の課題に対する取組状況	平成23年度から開始した若年層（18歳未満及び学生）の観覧料無料制度の効果を検証しながら、さらに魅力ある美術館運営を企画し来館者増を図った。また、NPO主催のイベントに協賛して観覧料無料措置などの取組を行うとともに、各特別展ではワークショップや記念講演会を開催するなど、積極的に各種活動を展開した。				
	目標に対する成果と達成状況	本館では春と秋に地元NPO主催のイベントに協賛して観覧料無料措置などの取組を行うとともに、各特別展で詩の朗読会や記念講演会を開催するなど、積極的に各種活動を展開した。分館についても夏休み期間及び改修工事後の特別展でワークショップを開催し、大変好評をいただいた。作品収集については、本年度は購入・寄贈・寄託それぞれ該当する作品がなかった。		自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	予算の範囲内で、出来るだけ魅力のある展覧会活動を継続していく。また、記念講演会をはじめ各種講座、花まつりへの協賛等の積極的な実施を図る。収集活動については、出来る限り作品購入費を確保しながら、なおかつ作品の寄贈や寄託を積極的に募っていく。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	来館者増を図る展覧会を企画するとともに、学校等と積極的に連携を図る必要がある。				評価 【 B 】	
					前年度評価 (A)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		文化振興課				
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第3節 文化のかおるまちづくり				
		3. 文化財を保護します		(1) 世界遺産の保全・継承				
事業名		世界遺産保全事業						
事業概要等	事業の目的	平成16年7月、世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」のうち、熊野本宮大社をはじめとする本市が有する登録資産を、人類のかけがえのない財産として守り、引き継いでいくとともに、「田辺市歴史文化的景観保全条例」を設け、登録資産の周囲をバッファゾーン（緩衝地帯）として地域指定し、環境や文化的景観の維持することを目的とする。						
	事業の内容・現状	三県協議会策定の包括的な保存管理計画、及び、田辺市策定の保存管理計画に従い、本市が有する登録資産を、人類のかけがえのない財産として保全する。 このため、非常に広大な古道区域を、旧本宮町・旧中辺路町域に分割し、日常の管理を本宮・中辺路両森林組合それぞれに委託し、定期的なパトロールは月に1度実施し、また、台風通過後などの災害確認については即日中に実施し被災状況等を把握するなど、日常的な維持管理を通して、世界遺産の適切な保全を行う。 重要文化財熊野本宮大社社殿の修理事業に対して、事業費補助などの支援を行う。						
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他						
	根拠法令等	文化財保護法、和歌山県景観条例、田辺市歴史文化的景観保全条例、田辺市指定文化財等補助金交付要綱ほか						
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)		
	予算額(千円)	10,549	15,177	報酬	98	国支出金	4,361	
	決算額(千円)	12,793	14,507	需用費	2,433	県支出金	2,444	
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	委託料	10,431	地方債	2,500	
	測量調査箇所	0箇所	1箇所	負担金補助及交付金	1,545	その他		
	修復・修繕箇所	26箇所	5箇所			一般財源	5,202	
	事業補助件数	1件	1件	計	14,507	計	14,507	
	上記以外のH24年度の実績							
	目標と達成状況	事業の目標	①景観審議会：申請案件審議、景観に対する意見具申 ②古道管理・パトロール：通常管理・パトロールを本宮・中辺路両森林組合に委託し実施 ③文化財保護対策：文化財の保存・整備、修復・修繕事業、啓発活動 ④その他：災害確認、軽微な修繕の実施、熊野三山史跡整備事業補助、潮見峠ほか測量調査					
		H23年度の課題に対する取組状況	古道管理、修復・修繕事業とも関係団体との連携により概ね適切に実施されている。台風12号災害による復旧事業は大規模崩落した1箇所を残して終了し、この1箇所も治山事業終了後に着手することで事業を進めている。世界遺産関連の未指定文化財については、24年度に参詣道の測量調査・整備を実施し、史跡指定・追加登録に向けた取組を進めている。					
目標に対する成果と達成状況		①景観審議会：2回開催、申請案件審議等 ②古道管理・パトロール：年12回以上実施、小規模修繕 ③文化財保護対策：古道等の修復・修繕（5箇所） ④その他：災害確認、軽微な修繕の実施、熊野三山史跡整備事業への事業補助、潮見峠ほか測量調査			自己評価（B） A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状 況			課 題 の 総 括			
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	世界遺産の保全については、効果的な古道管理・パトロールにより概ね適切に実施されているが、大規模災害時の対応など広大な面積を維持・管理するための施策については、より工夫が必要である。今後、古道の過去の修繕履歴等をデータ化するなど、管理の効率化を進めていきたいと考えている。世界遺産関連文化財については、測量成果や調査結果を踏まえ、引き続き文化財指定・登録の作業に努めたい。			
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり				
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり				
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり					
総合評価（教育長・次長）	世界遺産の保全については、関係機関との連携により、概ね適切に管理されている。世界遺産関連文化財については、関係機関と連携を図り、事業が遅延しないよう努めていかなければいけない。					評価【B】		
						前年度評価（B）		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名	文化振興課				
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち	第3節 文化のかおるまちづくり				
		1. 郷土の歴史を学び後世へ伝承します 3. 文化財を保護します	(2) 歴史の学習機会の充実 (2) 文化財の保存・整備				
事業名		文化財保存・整備、調査・研究、普及・顕彰事業					
事業概要等	事業の目的	市内に所在する文化財の調査・研究を進め、保護資料を作成するとともに、文化財整備事業を進め貴重な文化財を保護する。また、普及・顕彰事業では、郷土の歴史・自然を学ぶ機会や文化財の保存活動への支援を通じて、文化財を後世に伝えることをねらいとする。					
	事業の内容・現状	市内に所在する自然や遺跡、文化遺産の調査・研究を行い、郷土の歴史や文化を明らかにし、保護資料を作成する。得られた成果は、文化講演会や刊行物、歴史民俗資料館を通じて情報発信する。文化財保存・整備事業では、特別天然記念物食害対策防護柵設置事業のように文化財の保護に加え、林業施業との両立を図るほか、文化財の修理や適切な維持管理に努める。また、指定文化財の保護・継承のための活動や顕彰・普及事業に対して、事業費補助などの支援を行う。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	文化財保護法、和歌山県文化財保護条例、田辺市文化財保護条例、田辺市指定文化財等補助金交付要綱など					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	19,372	20,456	報償費	80	国支出金	6,676
	決算額(千円)	16,351	15,518	委託料	5,031	県支出金	333
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	使用料及賃借料	403	地方債	
	文化講演会参加者数	80人	60人	工事請負費	9,949	その他	2,410
	顕彰事業補助件数	0件	1件	負担金補助及交付金	55	一般財源	6,099
指定文化財件数	199件	199件	計	15,518	計	15,518	
上記以外のH24年度の実績	・新歴史民俗資料館展示演出委託：1,596千円 ・新歴史民俗資料館入館者数(平成24年12月～25年3月)：3,159人						
目標と達成状況	事業の目標	①保存・整備事業 カモシカ食害対策防護柵設置事業・伏拝の盆踊り映像保存事業ほか ②調査・研究事業 市内遺跡発掘調査・オオウナギ生息地環境調査ほか ③普及・顕彰事業 文化講演会の開催、指定文化財保存顕彰事業(事業補助)ほか					
	H23年度の課題に対する取組状況	カモシカ食害対策防護柵設置事業については、事業箇所等カモシカ生息状況調査に基づき概ね適切に進めている。文化講演会などの啓発・顕彰事業については、平成25年度から、図書館の郷土史講座を引き継ぐ形で、新たに歴史民俗資料館の講座を開設し、さらに魅力のあるものとなるよう取り組んでいる。					
	目標に対する成果と達成状況	①保存・整備事業 カモシカ食害対策防護柵設置事業：延長2,640m 無形民俗文化財映像保存事業：「伏拝の盆踊り」 ②調査・研究事業 市内遺跡発掘調査：2遺跡7箇所 オオウナギ生息地環境調査：生息環境及び捕獲調査 ③普及・顕彰事業 文化講演会：1回、保存顕彰事業(事業補助)：1件 新歴史民俗資料館展示演出・開館				自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った	
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	事業は概ね計画通りに実施している。特別天然記念物食害対策防護柵設置事業については、カモシカ生息状況調査に基づき、引き続き効果的な事業実施に努めたい。啓発・顕彰事業については、調査・研究成果や保存事業の成果を、新しく開館した歴史民俗資料館を拠点に、広く市民の皆さんに情報発信を行っていきたい。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	文化財の保存には、市民の理解と協力が必要不可欠であり、歴史民俗資料館を拠点に啓発、顕彰事業を展開していく必要がある。					評価【B】	
						前年度評価(B)	

(4) 学びを支えるまちづくり

◎基本方針

「田辺市生涯学習推進計画」に基づき、市民の主体的な学習活動を支援し、地域づくりにつながる学習活動を進めるとともに、学校・家庭・地域が相互に連携した学社融合を推進し、学びの成果が地域で生かされる生涯学習のまちづくりを進めます。

また、市民誰もが気軽にスポーツに親しみ、健康で豊かな生活を送れるよう、指導体制を充実し、競技力の向上と生涯スポーツの振興を図るとともに、安心・安全にスポーツ活動が実施できるよう施設の整備を進めます。

ア. 生涯学習の振興を図ります

①学習機会の充実

- ・公民館事業

②学社融合の推進

- ・学社融合研究事業

③学習環境の充実

- ・図書館管理運営事業

④学びを通じた地域づくりの推進

- ・田辺市まちづくり市民カレッジ
- ・田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画 策定

イ. 生涯スポーツの振興を図ります

①スポーツ・レクリエーション支援体制の充実

- ・スポーツ・レクリエーション支援事業

②スポーツ・レクリエーション機会の充実

- ・紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務
- ・スポーツ・レクリエーション機会の充実

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
		1. 生涯学習の振興を図ります		(1) 学習機会の充実			
事業名		公民館事業					
事業概要	事業の目的	ぬくもりのある社会の実現と地域の活性化を目指し、関係教育機関・団体と連携を図りながら、住民の交流の促進、地域づくりに繋がる学習活動の推進、人権教育啓発及び学社融合の取組を行う。					
	事業の内容・現状	①地域住民の交流の促進を図るための各種事業の実施 各種文化・スポーツ事業、教室、サークル支援等 ②地域の課題解決と、魅力ある地域を作るための学習活動の実施 環境問題、防災、福祉等の、現在の課題や地域の課題に関する学習会 ③人が大切にされるまちづくりを推進するための人権教育啓発の取組 各公民館における地域別人権学習会の開催及び指導者層を対象とした研修の実施 ④地域全体での子育てと地域の活性化を図る学社融合事業の取組 公民館、学校が連携した子どもの健全育成と地域コミュニティの形成を図るための取組					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	社会教育法					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	67,225	64,362	報酬・賃金	13,571	国支出金	
	決算額(千円)	61,032	57,325	報償費・旅費	6,714	県支出金	1,676
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	需用費・役務費	23,897	地方債	
	公民館事業延べ参加人数	167,252	178,723	委託料・使用料	11,503	その他	
				負担金補助金ほか	1,640	一般財源	55,649
			計	57,325	計	57,325	
上記以外のH24年度の実績							
目標と達成状況	事業の目標	ぬくもりのある社会の実現と地域の活性化を目指し、関係教育機関・団体と連携を図りながら、住民の交流の促進、地域づくりに繋がる学習活動の推進、人権教育啓発及び学社融合の取組を行う。					
	H23年度の課題に対する取組状況	東日本大震災、台風被害等を受け、防災を「テーマ」とした学習会の開催に重点的に取り組むとともに、学社融合をはじめとする地域づくりや地域活性化に繋がる取組を展開し、住民のつながりの構築や地域の課題解決に努めてきた。また、公民館職員の資質向上に向けては、積極的に様々な研修会に参加するとともに、毎月開催の公民館主事会でも研修を取り入れ、職員の力量の向上を図った。					
	目標に対する成果と達成状況	全ての公民館で策定した「地域生涯学習計画」に基づき、地域に根ざした公民館活動を展開した。各公民館では、学社融合の取組や文化・スポーツ事業、各種教室等を実施し、住民の交流促進を図るとともに、地域課題をテーマとした学習会の開催や人材の育成に努め、学びを通じた地域づくりや地域活性化に繋がるよう取組みを展開した。また、地域別人権学習会を開催し、人権に対する認識を深め、人権意識の向上を図ることができた。			自己評価 (B) A : 目標を超えて達成した B : 概ね目標は達成した C : 目標を下回った D : 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	公民館が地域づくりや地域活性化のための拠点となるようその役割を果たしていくことが求められる。そのため平成25年度からの後期地域生涯学習計画で地域課題と公民館の役割を的確に位置づけており、より効果的な事業展開を図ることが重要である。公民館での学びを通じて、防災をはじめとする地域課題の解決やより魅力ある地域づくりに繋げていけるよう、各種団体とも連携を図り、さらに充実した取組の展開や住民の主体的な活動を支える公民館職員の力量向上を図る取組を継続、充実させることが必要である。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	各公民館とも「地域生涯学習計画」に基づいて事業展開を行い、地域課題の解決や地域づくりにつながる取組を行っているが、今後は全ての公民館での取組としていきたい。					評価 【 B 】 前年度評価 (B)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
		1. 生涯学習の振興を図ります		(2) 学社融合の推進			
事業名		学社融合研究事業					
事業の概要等	事業の目的	田辺市教育委員会では、教育方針の最重要項目として「学社融合の推進」を位置づけており、学校・家庭・地域の教育力向上を図りながら子どもの健全育成に取り組む体制づくりと地域の特色ある教育に努めている。学社融合の全市的な向上を図るため、学校と公民館を同時に研究指定し、実践と研究の取組の成果を市全域へ普及させる。					
	事業の内容・現状	全公民館、全幼稚園、全小中学校において、地域の特色を生かした学社融合の推進を展開している。平成18年～20年度の芳養小学校と芳養公民館をはじめ、平成21～23年度には県下初の一体型施設の田辺第一小学校と中部公民館、平成24年度からは上山路小学校と宮代分館、東西分館、殿原分館を順次研究指定し学社融合に取り組んでいる。最終年度には研究発表会を開催し、その成果を市内全域に普及させ、全地域において学社融合が図れるよう取り組んでいる。また、平成23～25年度の3年間、文部科学省の補助事業を活用した共育コミュニティ本部事業で4地域（田辺第三小学校・西部公民館、新庄中学校・新庄公民館、中辺路小学校・中辺路公民館、本宮小中学校・三里小学校・本宮公民館）が取り組んでおり、地域に根ざした事業を展開している。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	教育基本法、社会教育法、田辺市教育基本方針					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	2,600	2,364	報償費	760	国支出金	
	決算額(千円)	2,824	2,365	旅費	128	県支出金	1,576
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	需用費	1,346	地方債	
	研究発表会参加者	500	650	役務費	33	その他	
				使用料及び賃借料	98	一般財源	789
			計	2,365	計	2,365	
上記以外のH24年度の実績	・8月18日 学社融合研修会開催（園・校長、学社融合担当者、公民館長・主事等を対象） ・8月18日 学社融合研修会開催（一般教員、PTA、地域コーディネーター等を対象）						
目標と達成状況	事業の目標	本格的な学社融合の取組みを開始した芳養小学校・芳養公民館から田辺第一小学校・中部公民館、上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館と継続的に事業が展開されてきており、その成果を研究発表会で披露することにより、取組を市内全域に広めていく。また、共育コミュニティ本部事業の取組みをさらに深化させ、学校・家庭・地域の連携を一層強化し特色ある地域づくりに努める。					
	H23年度の課題に対する取組状況	芳養小学校・芳養公民館、田辺第一小学校・中部公民館については継続した取組がなされており、地域づくりの一翼を担っている。上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館については初年度ではあるが、研修会や地域交流が実施され、更なる飛躍が期待される。また、共育コミュニティ本部事業では4地域それぞれが、さらに取組を強化し事業展開を図っていることから、学社融合の推進について市内全域への普及が期待される。また、そのための組織体制の整備も徐々に進んでいる。					
	目標に対する成果と達成状況	上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館の研究では、統合された学校であり、地元住民の愛着感や親近感の希薄化が心配されるなか研修会や地域交流を重ね、地域一体化に向けた取組が図られている。今後は「龍人学」をテーマに様々な事業展開が図られ、特色ある地域づくりが期待される。共育コミュニティ本部事業では、4地域とも学社融合の取組が確立されてきており、今後は更に深化した研究事業に取り組むことで、学社融合の推進がますます図られ、広く他地域へも普及することが期待される。		自己評価 (A) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った			
事業の課題	区分	状況		課題の総括			
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	現在取組を進めている4地域の共育コミュニティ本部事業のさらなる発展と、平成24年度から研究指定されている上山路小学校・宮代分館・東西分館・殿原分館の取組をより充実させていく必要がある。また、研究事業の成果からそれぞれの地域で特色ある取組に繋げていくことが必要であり、今後は、全地域において学社融合を推進させていくためには、先ずは組織を確立させた上で取組を展開することが求められる。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	学社融合を推進していく中で、指定研究期間が終了した後も、その地区ではしっかりと学社融合に取り組んでいる。地域指定にかかわらず、全地域に学社融合を推進させるように取組むとともに、各地域内での取組を充実させるために各地域の全ての人が参加できる工夫が必要である。				評価【B】		
					前年度評価(A)		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		図書館			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
		1. 生涯学習の振興を図ります		(3) 学習環境の充実			
事業名		図書館管理運営事業					
事業の概要	事業の目的	公共図書館は市民生活に欠かせない施設として、近年の社会環境の変化に即応した地域の情報および生涯学習支援の拠点、子どもの読書活動の推進を図る施設として、その役割を果たさなければならない。そのため、すべての市民が、身近に図書館を利用できるよう、効率的・効果的な図書館サービスネットワークの構築を図る必要がある。					
	事業の内容・現状	<p>【読書活動の推進】</p> 様々な読書推進活動（ブックスタート、ブックトーク、読み聞かせ、団体貸出など）を実施し、子どもたちが読書に親しめる環境づくりに取り組んでいる。配本については幼稚園、保育所を対象とした「なかよし文庫」に加えて、新たに学童保育所を対象とした巡回を始めている。 <p>【資料整備と蔵書の充実】</p> 幅広い市民の学習ニーズに応じた資料、地域の特性を生かした資料の整備と蔵書の充実を図っている。 <p>【情報通信を活用したサービスの充実】</p> 図書システムにより、本館及び4分室の蔵書管理の一元化を行ない、インターネット予約の推進を図る等、図書資料提供サービスの迅速な運営を進めている。 <p>【移動図書館等の充実】</p> 本館、分室への来館に不便な地域には、移動図書館を運行し、田辺市全域への読書活動の手助けを行っている。各行政局、教育事務所との連携による「ふれあい文庫」の巡回を行ない、地域の文化力向上に寄与している。					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等						
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	107,360	42,878	報酬・報償費	529	国支出金	
	決算額(千円)	94,722	40,422	旅費・需用費	10,936	県支出金	
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	役務費・委託料	6,326	地方債	
	本館入館者数	81,221	229,486	使用料・備品購入費	21,787	その他	8,385
	図書受入冊数	36,157	14,508	負担金補助ほか	844	一般財源	32,037
				計	40,422	計	40,422
	上記以外のH24年度の実績	・新館開館（H24.2.4）に伴う記念行事 ①記念講演会、 ②子どもの文化芸術活動促進団体との協働による「田辺っ子、新図書館に集まれ」 ・暮らしに役立つ講座の開設（5～7月） ・読み聞かせボランティア育成研修会実施					
	事業の目標	・資料の充実 ・読み聞かせボランティア育成研修会実施					
	H23年度の課題に対する取組状況	・年度計画に基づく事業等の取組については概ね達成できたが、資料の充実や人材育成については、今後も継続的に取り組むべき課題である。					
	目標に対する成果と達成状況	・昨年度に引き続き、読み聞かせボランティア研修会の実施により、技術及び活動意欲の向上に効果を上げている。			自己評価（B） A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	新館での充実した図書館サービスを展開するためには、「施設」「資料」「職員」の3要素がバランスよく保たれていることが必要である。施設については、達成されたため、残りの要素としての「資料」「職員」について、日々効率的な選書および資質の向上が必要である。		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価（教育長・次長）	新しい図書館では、資料の充実と職員の資質向上が必要不可欠であるが、資料については、その活用のソフト事業も考慮していく必要がある。				評価【B】		
					前年度評価（B）		

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		1. 生涯学習の振興を図ります		(4) 学びを通じた地域づくりの推進		
事業名		田辺市まちづくり市民カレッジ				
事業の概要	事業の目的	これからの地域を豊かにしていくために地元学講座を開設し、まちや地域を支える人づくりに努める。様々な分野の第一線で活躍されている研究者や実践者を講師に招き、地域が抱える課題を解決するため、市民自らが行動する力を育む。				
	事業の内容・現状	テーマを「今そこにある危機の共有と自治を育む市民力の形成」とし、第一線の研究者や実践者を講師に招き、9月より毎月1回、全7回の講座を開催する。受講者は地域参加者（公民館推薦）及び一般公募に企画委員、公民館主事の81名（聴講者を除く。）。毎回、講義の後に地域ごとに分かれてのグループ協議を行う。受講生は全7回の講座を通じて、地域における自身の行動宣言（マイ・マニフェスト）を作成し、最終回に発表する。 ■事業の数値実績 延べ参加者数（聴講者を含む。） 539名				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	「田辺市生涯学習推進計画」が掲げる重点アクションプラン				
	事業コスト	H23年度		H24年度		H24年度決算歳出節別内訳(千円)
	予算額(千円)	723		1,050		報償費 481 国支出金
	決算額(千円)	723		1,050		旅費 453 県支出金
	事業の数値実績	H23年度		H24年度		需用費 41 地方債
	講座数	年7回		年7回		役務費 75 その他
	延べ参加者	615人		539人		一般財源 1,050
				計		計 1,050
	上記以外のH24年度の実績	企画、運営は、市民も参画した企画委員会を組織し、プログラムの立案や講座の運営にあたった。公民館主事も研修の一環（市民との共同学習）と位置づけ、受講生と共に学び、また、毎回、グループ協議に参加し、市民と地域づくりについて話し合った。				
目標と達成状況	事業の目標	地域課題に向き合い、こうした状況を把握し、解決方法を住民と共に考え、自らも行動する地域の未来づくりにつながる人材の育成。				
	H23年度の課題に対する取組状況	受講生と地域づくりの最前線で活躍する自治会とのつながりができるように、自治会連絡協議会と連携し、自治会連絡協議会会長名で自治会長に参加を呼びかけていただき、自治会関係者17名の参加があった。				
	目標に対する成果と達成状況	受講生は、地域のために自身ができる第一歩「個人行動宣言（マイ・マニフェスト）」を作成するなど、7回の講座を通じて地域を支えるための行動を起こす意欲を持つようになり、自主的に地域で避難マップを作成し、配布するなど、行動を起こす修了生も出てきている。 また、田辺市の安全・安心なまちづくりを考える中で、特に共助について受講生同士で話し合い、地域力を生かした災害に強いまちづくりへの認識が高まった。		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	防災や安全・安心なまちづくりだけでなく、「田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画」の重点アクションプラン「輝け！地域の未来塾（地域版市民カレッジ）」「地域力を高める公民館活性化モデル事業」などの実施につながる人材を育むプログラムの立案の必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
総合評価（教育長・次長）	地域課題に向き合う人材の育成を行っており、受講生みんなが地域で行動宣言通り行動できる講座としてほしい。				評価【B】	
					前年度評価 (B)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		1. 生涯学習の振興を図ります		(4) 学びを通じた地域づくりの推進		
事業名		「田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画」策定				
事業の概要等	事業の目的	「田辺市生涯学習推進計画」を策定してから5年が経過したことから、社会情勢の変化に対応し、様々な地域課題を解決し、新たな価値を創造していくために、今後5年間を計画期間とした「後期基本計画」を策定する。 併せて、各地区公民館においても「地域生涯学習（後期）計画」を策定する。				
	事業の内容・現状	策定に向けて、社会教育委員会議に「後期基本計画の基本的な考え方」について、教育長から平成23年5月に諮問を行い、平成24年12月に答申をいただいた。答申に向けて社会教育委員会議では、年間6回の定例会議に加え、自主的な調査、研究を行うとともに、各地区公民館での地域シンポジウムにも参加し、住民の声を答申に生かした。 各地区公民館（20箇所）においては、ワークショップ型の地域シンポジウムを開催し、参加者より地域課題や学習ニーズ、地域課題解決のために公民館が果たす役割などについて生の声を聞いた。実施にあたっては、各地区公民館において、実行委員会を組織し、企画、運営を行った。 素案検討部会として、関係各課室等の係長級職員による「地域を創る生涯学習推進会議」を作業グループとし、地域シンポジウム等で出された意見を反映しながら、素案の作成に取り組んだ。 また、高等教育機関との連携として、和歌山大学からは、地域シンポジウムでの指導、助言、資料提供及び策定への助言等をいただいている。				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	田辺市生涯学習推進計画				
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)		1,300	報償費	350	国支出金
	決算額(千円)		1,260	需用費	891	県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	役務費	19	地方債
	地域シンポジウム参加者		1,025			その他
						一般財源
			計	1,260	計	
					1,260	
	上記以外のH24年度の実績					
目標と達成状況	事業の目標	市民の意見を十分に反映するため、市民参画の機会を設けるとともに、社会教育委員会議等との協働により、後期基本計画を策定する。				
	H23年度の課題に対する取組状況	新規事業				
	目標に対する成果と達成状況	地域シンポジウムを20箇所の地区公民館で開催し、1,025名の参加があった。こうした地域シンポジウムで出された意見を踏まえて策定にあたった。 また、社会教育委員会議では、諮問を受けた「後期基本計画の基本的な考え方」について、定例会以外にも自主的な調査、研究のほか、地域シンポジウムにも参加し、住民の意見を反映した答申を行った。また、社会教育委員会議に、計画策定に際しての進捗状況も随時報告し、その内容も審議した。		自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	円滑な計画の推進、特に重点アクションプランの進捗管理に努める必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	後期基本計画を策定するなかで、地域シンポジウムの開催等により市民の意見を充分反映するとともに社会教育委員会議とも充分意見交換し、計画を立案した。				評価 【 A 】	
					前年度評価 (-)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		スポーツ振興課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目	第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり			
	2. 生涯スポーツの振興を図ります		(1) スポーツ・レクリエーション支援体制の充実			
事業名		スポーツ・レクリエーション支援事業				
事業の概要	事業の目的	・ 体育連盟・体育協会、スポーツ少年団など、各種スポーツ団体の円滑な団体運営を支援するとともに、スポーツ指導者の育成に努め、競技スポーツ・地域スポーツの振興を図る。 ・ クラブ運営の核となるクラブマネージャーの養成を進め、総合型地域スポーツクラブの育成・支援を行う。				
	事業の内容・現状	・ 体育連盟・体育協会、スポーツ少年団への補助金交付。 ・ 近畿・全国スポーツ大会への参加費補助。 ・ 各種競技団体の指導者等を対象に、事故や怪我の防止、救急救命の技術向上のための研修会を実施し、指導者の資質向上に努める。 ・ クラブマネージャーの養成推進、総合型地域スポーツクラブ育成・支援。 ・ スポーツ推進委員協議会では、委員のニュースポーツに関する知識を深めるため、研修会を開催するとともに、県・近畿・全国スポーツ推進委員研究協議会に参加し、各地の事例研究やニュースポーツの研修等を行う。				
	運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	5,050	4,879	体育連盟交付金	4,200	国支出金
	決算額(千円)	4,885	4,860	スポーツ少年団補助金	450	県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	近畿・全国大会補助金	210	地方債
						その他
						一般財源
			計	4,860	計	4,860
上記以外のH24年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会、講習会の開催を通じたスポーツ指導者の育成 競技スポーツ・地域スポーツの振興 総合型地域スポーツクラブの育成支援 				
	H23年度の課題に対する取組状況	スポーツ指導者研修会として「熱中症の予防とAEDの活用法」、「テーピング講習会」を開催した。スポーツ推進委員協議会では、委員研修としてニュースポーツ研修会を実施するとともに、県・近畿・全国スポーツ推進委員研究協議会に参加し、スポーツ少年団では、認定員養成講習会の受講を推進するなど、スポーツ指導者の育成に努めた。				
	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ指導者研修会には、体育連盟・スポーツ少年団・総合型クラブの指導者、学校関係者などに多数参加を頂き、「熱中症の予防とAEDの活用法」には49名、「テーピング講習会」には37名の参加があった。 近畿大会出場チームへの参加費補助(スポ少2チーム) スポーツクラブ関係者を対象とした研修会に参加。 スポーツ推進委員協議会では、ニュースポーツ研修会を2回実施し、県・近畿・全国スポーツ推進委員研究協議会にそれぞれ参加した。 スポーツ少年団では、認定員養成講習会の受講を推進し、各単位団で1名以上の認定員の確保に努めた。 		自己評価 (B) A: 目標を超えて達成した B: 概ね目標は達成した C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	緊急時のAEDの活用について、研修機会の提供もさることながら、緊急事態を未然に防ぐことが、何よりも重要である。熱中症だけでなく、ケガの応急処置等の正しい知識を持って頂くように、情報提供をする事と、今後は、スポーツ活動時の安全体制について、常に注意を払うことのできる指導者育成を進め、貸出し用で配備したAEDの更なる利活用も進める必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	今後も指導者の育成や安全対策について充実を図っていく必要がある。また、総合型地域スポーツクラブの育成支援についても研究していく必要がある。				評価 【 B 】 前年度評価 (B)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		国体推進室		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		2. 生涯スポーツの振興を図ります		(1) スポーツ・レクリエーション支援体制の充実 (2) スポーツ・レクリエーション機会の充実		
事業名		紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務				
事業概要等	事業の目的	平成27年秋に開催される「紀の国わかやま国体」の成功に向け準備を行う。				
	事業の内容・現状	<ul style="list-style-type: none"> 田辺市実行委員会の立ち上げ 先催地調査 中央競技団体の視察対応 国体のぼり設置などPR事業 				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等	スポーツ基本法（平成23年8月24日施行）第26条（国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会）				
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		
	予算額(千円)		1,963	旅費	991	国支出金
	決算額(千円)		1,410	需用費	368	県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	役務費	15	地方債
				使用料借料	36	その他
						一般財源
			計	1,410	計	1,410
上記以外のH24年度の実績						
事業の目標	田辺市実行委員会の立ち上げ及び先催地調査					
H23年度の課題に対する取組状況	H24年度から国体準備室が設置され、本格的な準備に取りかかった。					
目標に対する成果と達成状況	実行委員会については、他市に若干遅れたものの、11月に発足させることができました。また、先催地の調査や県との協議など精力的に取り組んだ。			自己評価 (B) A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況		課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	平成25年度から国体推進室に名称を変え、専任職員を増加(+4名)し事務所も移転するなど、国体開催にあと2年と迫る中、より迅速に的確な準備作業を行う必要がある。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
総合評価(教育長・次長)	平成27年に開催される国体が成功するよう関係機関と充分連携するとともに、全庁体制で臨んでいける体制を構築していく必要がある。				評価 【 B 】 前年度評価 (-)	

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		スポーツ振興課		
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第4節 学びを支えるまちづくり		
		2. 生涯スポーツの振興を図ります		(2) スポーツ・レクリエーション機会の充実		
事業名		スポーツ・レクリエーション機会の充実				
事業概要等	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに親しむ機会の拡充、スポーツに対する市民の関心を高めるため各種大会を開催する。 ・「スポーツ」と「観光」を一体的に捉え、各種スポーツ大会（合宿）の開催、誘致に努め、生涯スポーツの振興を図る。 				
	事業の内容・現状	<H24開催（招致）事業> ・市民体育祭 ・市民スポ・レク祭 ・関西実業団対抗駅伝競走大会 ・第6回全国スポーツクラブ会議				
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他				
	根拠法令等					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)
	予算額(千円)	6,067	6,267	スポーツ推進委員報酬	1,841	国支出金
	決算額(千円)	6,066	6,266	市民体育祭補助金	750	県支出金
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	市民スポ・レク祭補助金	675	地方債
				関西実業団駅伝補助金	1,700	その他
				近野山間マラソン補助金	300	
			全国スポーツクラブ会議補助金	1,000	一般財源	6,266
			計	6,266	計	6,266
上記以外のH24年度の実績						
目標と達成状況	事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに親しむ機会の拡充、スポーツに対する市民の関心を高めるため、各種スポーツ大会等を開催し、参加者数の増加に努める。 ・「スポーツ」と「観光」を一体的に捉え、各種大会や合宿の招致を行うことで、田辺市のPR、市への経済効果をもたらす。 				
	H23年度の課題に対する取組状況	・関西実業団対抗駅伝競走大会、第6回全国スポーツクラブ会議を開催し、多くの市民の方々に運営やボランティアなど大会に携わっていただいた。				
	目標に対する成果と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第36回市民体育祭（29種目、3,771名参加） ・第8回市民スポ・レク祭（15種目、1,307名参加） ・関西実業団対抗駅伝競走大会を開催（15チーム参加） ・第6回全国スポーツクラブ会議（約700名参加） 		自己評価（B） A：目標を超えて達成した B：概ね目標は達成した C：目標を下回った D：目標を大きく下回った		
事業の課題	区分	状況			課題の総括	
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	関西実業団対抗駅伝競走大会は、市民の方々が運営やボランティア等で大会に携わっていただいていることで、市民のスポーツ振興につながっている。 また、平成21年度に開催した「国際親善ソフトボール大会」を契機として、スローピッチソフトボールの普及・定着に取り組んでいる。これは、高齢者の健康維持、増進、介護予防等、福祉面での効果も期待できるものと考えている。	
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
	効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり		
総合評価（教育長・次長）	招致した大会が一過性でなく継続されている。今後も各種大会がマンネリ化することなく継続していくよう努力されたい。				評価【B】	
					前年度評価（B）	

(5) 国際化に対応するまちづくり

◎基本方針

市民の国際理解に対する幅広い意識の向上に努め、次代を担う子供たちの外国語教育や国際理解を深める教育の充実を図るとともに、情報提供や相談活動、在住外国人への各種行政サービスを充実するなど、国際化に対応できるまちづくりを推進します。

ア. 国際交流を推進します

①国際交流体制の充実

- ・国際交流センターの運営

平成24年度 田辺市教育委員会事務事業評価シート

		担当課名		生涯学習課			
第1次田辺市総合計画に位置付けている項目		第1章 人をはぐくむまち		第5節 国際化に対応するまちづくり			
		1. 国際交流を推進します		(2) 国際交流体制の充実			
事業名		国際交流センターの運営					
事業の概要等	事業の目的	市民と外国の方々の交流の場を作ることにより、お互いの文化・習慣などへの理解を深め、市民レベルでの国際交流を図ることを目的として設置する。					
	事業の内容・現状	<p>市民総合センター3階の1部屋を事務室とし、国際交流員1名（英語対応）と臨時職員1名を配置している。また、同室内にサロンスペースを設け、外国人と市民の交流の場、外国人同士の情報交換の場としている。</p> <p>国際交流センターの主な業務としては、市内在住・来訪外国人に対する相談業務や生活情報の提供、市民に対する国際交流に関する情報の提供、国際交流に関する啓発事業や外国人との交流事業、日本語を教える教室等を実施するほか、増加する生活関連の相談に対応するため、「暮らしの便利帳」の英語版を発行した。</p> <p>また、国際交流員は下記の4点を具体的な業務として活動している。</p> <p>①国際交流関係事務の補助（翻訳、通訳、国際交流事業の企画・立案及び協力・助言、外国からの訪問客の接遇、イベント時等の通訳等）</p> <p>②地域住民に対する語学指導への協力</p> <p>③地域の民間交流団体の事業活動に対する助言及び参画</p> <p>④地域住民の異文化理解のための交流活動及び外国人住民の生活支援活動への協力</p>					
	運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他					
	根拠法令等	語学指導等を行う外国青年招致事業⇒国際交流員の配置					
	事業コスト	H23年度	H24年度	H24年度決算歳出節別内訳(千円)		H24年度決算財源内訳(千円)	
	予算額(千円)	7,200	7,843	賃金	7,152	国支出金	
	決算額(千円)	6,426	7,592	報償費	120	県支出金	
	事業の数値実績	H23年度	H24年度	旅費	74	地方債	
	国際交流センター来客数	1,863人	1,678人	需用費	149	その他	
	語学指導への協力	54件	68件	役務費・負担金補助金	97	一般財源	7,592
	生活相談等	8件	33件	計	7,592	計	7,592
	上記以外のH24年度の実績						
	目標と達成状況	事業の目標	外国人との交流の機会と場の提供と、市民レベルでの国際交流の推進を図るために、国際交流センターの国際交流員と臨時職員を配置し、活動内容の充実を図る。				
		H23年度の課題に対する取組状況	多言語への対応や専門化する相談内容への対応は、県国際交流センターや田辺国際交流協会などとの協力、連携により、対応する。				
目標に対する成果と達成状況	<p>国際交流員が「まちづくり学びあい講座」などを通じて、直接、市民と話し合う機会を設けるなど、市民レベルでの国際交流や異文化理解を進めている。</p> <p>また、「暮らしの便利帳」の英語版を発行し、市政に関する生活情報の提供を行った。</p> <p>生活相談においては、県国際交流センターをはじめとする関係機関との連携により対応している。</p>			<p>自己評価 (B)</p> <p>A: 目標を超えて達成した</p> <p>B: 概ね目標は達成した</p> <p>C: 目標を下回った</p> <p>D: 目標を大きく下回った</p>			
事業の課題	区分	状況			課題の総括		
	事業ニーズの状況	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<p>生活相談は増加傾向にあり、その内容も就労や在留資格、DVなど多岐にわたるため、関係機関とのより一層の連携が必要がある。</p> <p>また、国際交流員が地域に直接、出向くなど、市民レベルでの国際交流や異文化理解を進める取組をより充実する必要がある。</p>		
	見直しの必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input checked="" type="checkbox"/> 当面なし	<input type="checkbox"/> あり			
	有効性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり			
効率性を高める必要性	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 当面なし	<input checked="" type="checkbox"/> あり				
総合評価(教育長・次長)	市民レベルでの国際交流を図ったり、相談内容が複雑化するなかでは、関係機関・団体等との連携を強化していく必要がある。					<p>評価</p> <p>【 B 】</p> <p>前年度評価 (B)</p>	

6. 田辺市教育委員会事務事業点検評価委員会の意見等について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定に基づき、教育委員会の事務事業を点検評価するにあたって、その客観性を確保する観点から、教育に関し学識経験を有する5名の方々により設置する評価委員会から様々なご意見、ご助言をいただきました。

(1) 評価委員会開催日

①第1回 平成25年8月5日

- ・教育委員会点検評価の概要説明
- ・評価対象事務事業の説明
- ・質疑

②第2回 平成25年8月28日

- ・評価対象事務事業に対する意見等の聴取
- ・まとめ

(2) 評価委員会委員

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属 等
委 員 長	久 保 正 博	田辺市社会教育委員会議長
副委員長	桑 原 久仁夫	田辺市体育連盟会長
委 員	重 根 誠 治	元田辺市龍神行政局長
委 員	中 山 篤	元学校長
委 員	前 田 昭	田辺市PTA連合会副会長

(3) 評価対象事務事業 (21 事務事業)

評価委員会では、教育委員会が点検・評価した21事務事業について、各委員からご意見、ご助言をいただきました。

(1) 人を大切にするまちづくり

①人権学習の推進 (生涯学習課)

(2) 子どもをはぐくむまちづくり

①教育内容の充実のための事業 (学校教育課)

②開かれた学校づくり推進事業 (学校教育課)

③学校給食の実施 (給食管理室)

④学校施設整備事業 (教育総務課)

⑤児童館活動 (芳養児童センター、天神児童館、未広児童館)

⑥子どもクラブ育成事業 (生涯学習課)

(3) 文化のかおるまちづくり

- ①南方熊楠翁を学ぶ機会の充実（文化振興課／南方熊楠顕彰館）
 - ②田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の充実（文化振興課）
 - ③美術館運営事業（美術館）
 - ④世界遺産保全事業（文化振興課）
 - ⑤文化財保存・整備、調査・研究、普及・顕彰事業（文化振興課）
- (4) 学びを支えるまちづくり
- ①公民館事業（生涯学習課）
 - ②学社融合研究事業（生涯学習課）
 - ③図書館管理運営事業（図書館）
 - ④田辺市まちづくり市民カレッジ（生涯学習課）
 - ⑤田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画 策定（生涯学習課）
 - ⑥スポーツ・レクリエーション支援事業（スポーツ振興課）
 - ⑦紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務（国体推進室）
 - ⑧スポーツ・レクリエーション機会の充実（スポーツ振興課）
- (5) 国際化に対応するまちづくり
- ①田辺市国際交流センターの運営（生涯学習課）

(4) 意見等と今後の取組の方向性

(1) 人を大切にするまちづくり

①人権学習の推進

【意見等】

- ◇人権学習単独の学習や講演会の考えだけで無く、青少年健全育成や学校（学社融合）、その他の学習機会、講演会との合同で推進（連携）することも必要と考えます。
- ◇昨年度に比べて、参加者が増加しているのは、平成23年度から取り組んでいる学習テーマ「防災と人権」に住民の関心が更に高まっているからと伺える。今後においてもより多くの方々に参加してもらえるよう努力してほしい。
- ◇「防災と人権」という学習テーマが、近い将来、起こるであろう災害のシミュレーション的なイメージであることは理解出来るように思うが、何かミスマッチな組み合わせに思える。もう少しわかりやすいテーマのほうが良いのではないか。
- ◇地域の人権意識は普段の努力で確実に向上していると思う。だが、努力を怠ればすぐ低下する。その意味で人権学習会（研修会）は重要な事業と考える。参加者への影響は一時的とも考えられるが、その研修会を主体的に計画・実行した人達に多くの成果を残すと考える。その意味で、学習会実行委員会（仮称）等を組織し、自主運営を更に追求して欲しい。
- ◇「防災と人権」のテーマは優れていると考えられるが、田辺市の抱える大きな課題は「人口減少」だと思う。若者の働く場が欲しい、子どもが増えて欲しいなど、地域活性化のための経済基盤の強化が課題だと考えられるため、「地域産業を担う人材育成」というテーマとしてはどうだろうか。

【今後の取組の方向性等】

◇人権学習につきましては人権擁護連盟との連携のもと、平成 23 年度、24 年度については「防災と人権」というテーマで実施した合同研修会をはじめ、各地区公民館においても統一したテーマで学習会や講演会を実施してきました。今後についても、公民館だけの取組ではなく、他団体と連携しつつ、さらに参加者の拡大を図ってまいりたいと考えています。

「防災」と「人権」の関連性につきましては、災害が発生し普段の生活が失われた際には、特に避難所などにおいては、平常時では起こり得ない様々な人権問題が発生するとされています。近い将来、発生が予想される巨大地震とそれに伴う津波、台風による風水害等、当地方においても様々な災害が想定され、被災地となった場合は様々な人権問題に直面する可能性があることから、引き続き「防災と人権」といったテーマで、人権問題を考えていきたいと思っております。

また、各地域においては、主体的かつ継続的な人権学習会を展開することが必要であることから、引き続き、公民館長、公民館主事、生涯学習（人権）推進員、公民館協力員、各種団体等を中心とした実行委員会を組織した上で、取組を展開していきたいと考えています。

なお、地域産業を担う人材育成につきましては、生涯学習の取組としても必要であると認識しておりますことから、全市的に取り組んでいる「田辺市まちづくり市民カレッジ」や各地域での公民館活動等を通じて実施していきたいと考えています。

(2) 子どもをはぐくむまちづくり

①教育内容の充実のための事業

【意見等】

◇「質の高い教育、質の高い教師」と目的にありますが、現場としての状況で本当に全員が取り組めるのかが気になります。教育現場では教職員の皆さんが、事務作業等大変な苦勞をしながら、努力されていると聞きますが、この事業を推進するために、他の業務（提出資料等）を簡易化する事も併せて考えてはどうか。

◇教育現場は厳しいと推察する。教員の喘ぐ姿を連想する。教育委員会も管理職を通して現場に方針を伝達しようとする。その努力は認めるが、私はそれに加え、現場から学ぶとともに、現場から湧き上がるエネルギーを喚起して欲しい。

◇「学社融合」という言葉がよく使われているが、なかなか一般的には認知されていない気がする。もう少しわかりやすく説明された言葉に変えても良いのではないかと。

【今後の取組の方向性等】

◇「質の高い教師による、質の高い教育」を目指し、教職員には各種研修会等を実施したり、各学校での研修会に指導主事が赴いたりしながら取組を進めていますが、学校現場においては日々、数々の教育的課題に対応している状況もあるため、国や県の各種調査等については、重ならないように調整し、提出書類についても簡素化するように心がけていくとともに、学校訪問や各担当者会において教職員の声を吸い上げていくよう努めてまいり

ます。また、「学社融合」については、平成 19 年を学社融合元年として取り組んできており、「学社融合」という言葉についても、各地域で徐々に定着しつつあるため、今後も、保護者や地域に対してより理解していただけるよう、学社融合を推進していきたいと考えています。

②開かれた学校づくり推進事業

【意見等】

◇地域の方々への説明や参観だけでなく、一部の学校で行っているように授業で地域の方々が講師として参加する時間を増やすことも方法の一つであると考えます。また、学校経営に地域住民（まず評議員）が関わることで、互いに活性化すると考えます。

◇学社融合を通じて子供たちが地域の歴史・文化について知ることが出来るのは大変有意義なことだと思う。地域を愛する心が生まれ、ひいては地域に定住するようになってくれることを願います。

◇テレビや雑誌を見ると、最近業績が向上している企業は「お客さん目線」を持っているとのこと。もちろん商売ではお客さんが欲しがらなければ売れないので、当たり前と言えば当たり前である。一方、学校は始業時になれば児童、生徒が学校に来ている。それが当たり前と思っていないだろうか。

【今後の取組の方向性等】

◇学社融合を推進してきた結果、現在ではすべての市立幼稚園、小学校、中学校において地域の方々をゲストティーチャーやボランティア活動という形で授業や行事に招聘した取組が行われています。また、地域の人々から子どもたちが地域の歴史や文化を学ぶことで、郷土愛が育ち、ふるさとを愛する人材が育つことに繋がっていると考えております。今後も、地域の方々の教育力を生かした取組を増やすとともに、多くの方々に学校現場を知っていただける機会を増やしていきたいと考えています。また、子どもの思い、親の願い、地域の願いに応えられるような学校経営を進めていくよう各学校を指導するとともに支援してまいります。

③学校給食の実施

【意見等】

◇現場としては大変な実情は十分に理解していますが、アレルギーへの対応は必要と考えます。逆に親への教育ができる位に余裕ができれば良いですね。ただ、この事業での取組や実績は十分に評価でき、これからも進めて行って欲しいと思っています。

◇個人的にはすばらしいことと思う。ただ、近年アレルギー（アナフィラキシーショック等）などが大きくクローズアップされている事もあり、衛生管理も大切なことではあるが、アレルギーに対する周知にも力を入れて欲しい。

◇愛情一杯の手作り弁当を理想とするが、親の生活を観ると現実には困難な面もある。男女共同参画の時代には、その「働き」を支える給食は優れた取組である。また、菓子パンと牛乳の姿が見られなくなり、食材も地産地消を目標に考えてくれていることに感謝したい。

◇学校が給食を実施すればアレルギーの児童生徒への対応も要求される。しかし、学級経営に全力を挙げねばならない担任教員にこれ以上の負担を求めるのは厳しいと考えます。

【今後の取組の方向性等】

◇学校給食におけるアレルギー対応については、現在のところ、調理場ごとに、施設の規模、アレルギー対象者の有無やその程度等に応じて、個別の対応を行っているところですが、現在、国において議論されている「学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議」の報告内容や、今後実施される各調査の結果等を参考にしながら、市教育委員会の関係課が連携して検討していく必要があると考えています。

④学校施設整備事業

【意見等】

◇財政の厳しい中、計画的に進めていただいておりますが、耐震化とともに津波への対応なども計画に含めていただきたいと思います。

【今後の取組の方向性等】

◇学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場です。さらに、学校は地域コミュニティの拠点であり、災害時には避難場所としても活用されるため、常に安全で快適な施設環境が求められます。また、近い将来、東海・東南海・南海地震の発生が危惧されていることから、非木造の学校施設では、平成20年度に完了した耐震診断の結果に基づいて、耐震性の低い校舎等から優先して、計画的に耐震改修を実施しており、平成27年度の事業完了を目指して取組を進めています。一方、木造の学校施設についても、非木造施設の事業完了を目途として整備方針を構築してまいります。

また、津波への対応等については、地域や町内会等とも十分連携を図りながら、教育現場での指導や防災訓練の実施を通して、万一の場合には、速やかに高台等の安全な場所へ避難することを徹底していききたいと考えています。

⑤児童館活動

【意見等】

◇子ども、親共に、地域では必要な施設であり、今後も多様な居場所として事業の推進を図っていただきたい。

◇最近の若い主婦の中に子育てに悩む人が多くなっている。そんな中「フリースペースちびっこ」の開設は大変有意義だと思う。保護者同士の交流を通じ子育ての悩み解消にも繋がるのではないかと。

◇社会的にも必要性が高く素晴らしいと思う。もっと地域と子供達が近づけるような取組ができれば素晴らしいと思う。

◇児童館を必要としている地域は全てである。児童館活動を他地区へも広めて欲しい。

【今後の取組の方向性等】

◇児童館活動については、主に各種イベント・教室等を通じた子どもの健全育成事業や教育相談等による子育て家庭への支援事業、あるいは地域ぐるみで子どもを守り育てる活動

等を実施しており、平成 24 年度では 3 館合わせて 35,364 人の児童が来館し、その数は増加傾向にあります。

また、いじめ問題や児童虐待の問題など、様々な問題が発生する現在において、児童館は何よりも「子どもの居場所づくり」に努めており、各種教室や児童館まつり・キャンプ等、様々な行事を実施し、地域ぐるみで子育てを支援する活動の拠点として必要不可欠な施設であります。

「フリースペースちびっこ」については、就学前の乳幼児とその保護者の交流の場として開設しているもので、3 館合わせて年間 1,278 人が訪れ、遊具・絵本の設置や紙芝居・読み聞かせ等のイベントを実施しています。顔なじみになった保護者同士の情報交換や交流の中で、子育てに伴う様々な悩みや困りごとの解消につながっている部分は多々あると思われる、今後更なる利用促進を図ってまいりたいと考えております。

今後の児童館活動の全市的な展開については、学校や地域の各種団体と連携し地域ぐるみで子育てを支援するといった学社融合の観点から、将来的には各地域にある公民館やコミュニティセンターを活用した事業展開も視野に入れ、検討してまいりたいと考えております。

⑥子どもクラブ育成事業

【意見等】

◇各種スポーツ等の流行により、参加者の増減はあると思います。既存の事業も見直しは難しいと思いますが、事業目的を基本に検討をお願いします。

◇子どもクラブ活動は、主要 8 行事への参加はもちろん大事であるが、単位クラブの地域の実情に合った活動、例えば…祭り子ども神輿…河川敷堤防の清掃…廃品回収…プールの見守り…お別れ遠足…盆踊り…等々の活動が保護者の交流の場となり子育てにも役立っている。また、30 回と続いている子どもクラブ駅伝大会の盛り上がり体力を向上させ、県市町村対抗駅伝競走大会の好成績にも繋がっていると思う。

◇子どもクラブの活動はやはり大切だと思います。子供の学校以外での勉強の場として、色々な大切な事を学べる場としての必要性は高いと考えます。

◇子どもクラブは運動を中心にしているが、本年度「発明クラブ」が発足し、そこへの応募状況を見れば、児童には文化活動へのニーズもあるのではないかと。また、ある地域では子どもが上級生になれば、親が役員をしなければならないため、子どもを退会させる場合もあるという。淋しい。

【今後の取組の方向性等】

◇当該事業は、子どもクラブ育成協議会が実施する主要 8 行事を通し、子どもたちに豊かな体験をさせることにより、社会性や自主性を育て心身ともに健全な子どもの育成を目指すとともに、学校・家庭・地域が相互の連携を深めながら、地域ぐるみの教育活動や家庭教育の充実を図っているところです。

今後も、子どもクラブ本来の目的を見失うことなく、取組についてはスポーツ事業に限らず文化活動の実施など、地域の状況とニーズを踏まえ常に見直しを図ってまいりたいと

考えております。

また、全市的活動だけではなく、それぞれの単位クラブの地域における活動こそが大切であることから、そのための必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

なお、地域活動においては、一部の役員だけに負担がかかることのないよう運営に留意するとともに、子どもたちが活躍できる様々な機会を提供することにより、学校だけでは得られない地域の人との触れ合いや子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進してまいります。

(3) 文化のかおるまちづくり

①南方熊楠翁を学ぶ機会の充実

【意見等】

◇情報発信だけでなく、図書館や美術館との共同でイベント等も今後考えてもよいと思います。

◇学習機会の充実により、学校の社会見学を受け入れ、子供たちが地域の偉人の存在を再認識する機会を得ることは大切なことだと思う。今後一層の充実を望みます。

◇対象年齢がやはり高くなってしまおうと思う。小学生（低学年）にも分かるような取組が必要ではないかと考えます。

【今後の取組の方向性等】

◇図書館とは、熊楠翁の師匠、鳥山啓展の開催において、図書館の所蔵資料を借りて展示を開催するとともに、郷土史講座に当館館長が招かれるといった連携を図っております。また、美術館とは、地元の画家である楠本龍仙や川島草堂に関する展示の際に、当館所蔵資料を貸し出しております。今後ともこういった連携を含め、共同イベントにつきましても、検討したいと考えております。

小学校の副読本として『郷土の偉人 南方熊楠』を市内の小学校4年生に配布していることもあり、特に高学年の利用が多く、小学生だけで来館し、顕微鏡を覗いたり、本を読んだりするなどの活用をいただいています。また、毎年夏には、高校及び中学校の先生のご協力を得て、夏休み特別講座を開催しており、平成25年度は天神崎での生物観察会や顕彰館で海藻標本をつくる講座を開催し、多数の小学校低学年の参加を得ました。

②田辺市美術展覧会（市展）の開催及び文化事業の実施

【意見等】

◇企画検討委員会を旧町村を含めて持ち回りで行うことも一つの考え方では無いかと思います。現状の更なる推進をお願いします。

◇山間部で芸術文化に接する機会の少ない人々にとって、移動展を実施し、作品に接する機会を得たことは大変意義深いことである。今後においても機会があれば移動展の検討をお願いします。

◇「まずは足を運んでもらえる」ように出来ればよいのではないかと考えます。（小さな子供さんも）芸術の考え方をもっと拡大して漫画の作画なども展示してはどうでしょうか。

(国際的に見てもジャパニメーションといえれば評価は高いと思うのですが。)

【今後の取組の方向性等】

◇移動展を実施する際に組織した企画運営委員会は、市展運営委員（審査員）の各部門の代表で構成しており、展示内容と施設の規模から龍神地域での実施となりました。今後は、今回の移動展の状況を踏まえ、機会をとらえて他の地域においても移動展の実施を検討してまいります。

また、移動展の開催にあたり、地域の子供たちに少しでも芸術に興味、関心を持ってもらえるよう、龍神行政局管内の小・中学校に声かけし、授業の一環として移動展を観覧してもらえよう働きかけているところです。

③美術館運営事業

【意見等】

◇今後も美術館利用者が増加するような工夫をお願いします。

【今後の取組の方向性等】

◇本館、分館とも地元 NPO 主催のイベント等への協賛やワークショップなどの各種活動を積極的に行うことで美術館活動の周知や更なる来館者数の増加を図ってまいります。特に、若年層に美術に興味を持ってもらうためにも、学校教育の関係者と連携を図りながら企画や展覧会活動を行っていきたいと考えております。

④世界遺産保全事業

【意見等】

◇今後も引き続き事業の推進をお願いします。

◇長尾坂を通る「潮見峠越」は、近世に入って以降、熊野詣での近道として賑わった時期があり、途中の捻木峠は田辺市街や田辺湾が眺望できる絶好のポイントになっているので、一層の保全整備と広報に努めていただきたい。

◇世界遺産を守り継承する事は大切と考えます。

【今後の取組の方向性等】

◇世界遺産の保全については、広大な面積の資産を維持するため、より一層の工夫が必要と考えています。登録から 10 周年を来年に控え、世界遺産を確実に後世に伝えていくために、資産情報のデータ化による修繕箇所を選定や関係機関との連携等、より計画的・効果的な取組を進めてまいります。

熊野参詣道潮見峠越については、赤木越等の古道や王子社等の関連文化財とともに、国史跡への指定とその後の世界遺産追加登録に向けた取組を継続的に進めます。併せて、これらの資産の適切な保全整備と、保護に向けた啓発活動に取り組んでまいります。

⑤文化財保存・整備、調査・研究、普及・顕彰事業

【意見等】

◇学校や地域を巻き込んで事業を推進し、新たな魅力を見出して欲しいと思います。

◇新歴史民俗史料館が図書館2階に開館したことで、事業の目的遂行に更に拍車がかかることを期待します。広い駐車場と2時間までの無料が巷間で好評を得ています。

◇カモシカ食害対策防護柵設置事業は、植林した苗を食害から守る上で大きな役割を果たしている。林業と特別天然記念物との両立を図る上で大変重要な事業である。

【今後の取組の方向性等】

◇歴史民俗資料館については、市内に残された貴重な文化財を後世に伝えるため、積極的に収集・保存し、調査研究を進めるとともに、その成果を広く市民の皆さんに普及するため、展示・講座等を通じて情報発信を行ってまいります。また、学校教育や社会教育、地域との連携を図りながら、“見る”だけでなく“学ぶ”“体験する”など内容の充実に努めてまいります。

カモシカ食害対策防護柵設置事業については、野生動物であるカモシカが生息する自然環境の保護と主要産業でもある林業施業を両立し、自然と人間が共生できる環境を維持するために必要な事業と考えています。今後もカモシカの生息状況や食害の状況、林業関係者の意見や要望をもとに、効果的に事業を進めてまいります。

(4) 学びを支えるまちづくり

①公民館事業

【意見等】

◇公民館によって意識の持ち方が様々で、地域の特色を活かす事と、地域づくりや課題への取組等、公民館は重要な役割を担っています。田辺市として今後を見据え、公民館を今以上に育ててください。

◇公民館の必要性はやはり高く重要なものだと思う。

◇公民館は、教育委員会に所属し、「人づくり」を掲げている。それは理解しているが、公民館主事には、もっと地域の自治会活動との直接的な関係構築を期待している。

【今後の取組の方向性等】

◇地域における様々な課題の解決と、魅力ある地域づくりのために、地域における公民館の果たす役割は非常に重要であると考えています。公民館の機能を高めるためには、公民館長や公民館主事の資質が問われることから、様々な研修会等に積極的に参加するなど、個々の資質の向上に努めているところです。また、各公民館単位で作成した地域生涯学習計画に基づき、地域課題の解決と地域の新たな価値の創造に繋がる公民館活動を、今後更に積極的に展開してまいりたいと考えております。

なお、地域が一体となって地域づくりに取り組むためには、公民館だけではなく、町内会等の自治組織との連携が不可欠であると認識しております。そうしたことから、これまで以上に、地域の自治活動とは密接な関係性を構築していきたいと考えているところです。

公民館の究極の目的は地域づくりであり、日頃から人と人との繋がりを大切に、お互いの関係を密にした協力体制を築いていけるよう心掛けていきたいと考えています。それぞれの地域がそれぞれの特性を活かしながら、各種団体と連携し、公民館としての役割を果たせるよう、努力を重ねていきたいと考えています。

②学社融合研究事業

【意見等】

◇学校は地域の中心として昔から確立しています。子どもは地域の宝としていましたが、様々な意見の違いから、関わりが少なくなっており、この事業は、現状に必要だと考えています。今後も地域を活かした展開に期待しています。

◇上山路小学校・龍神公民館宮代分館・東西分館・殿原分館の学社融合は、統合した学校の取組であり、その成果が注目視される。今後統合する学校の学社融合へ大いに参考となるのではないかと。

◇地域と人々のつながりはやはり大切だと考える。

◇学校と地域との関係で言えば、地域を巻き込む避難訓練は優れた取組だと思いますが、地域住民のコーディネーターがいれば、先生方の負担も減り、活動内容にも広がりが出ると考えます。私の地域では地域づくりのため「夏祭り」を実施していますが、住民を各班に分け、班ごとに「テナント」を出し、出店の過程で住民間の親交を期待しているところです。（また、このテナントを中学生が運営できれば素晴らしいと考えます。）

このように、地域に出る学社融合もあり、このような活動は地域のコーディネーターが演出できるのではないかと思います。

【今後の取組の方向性等】

◇田辺市教育委員会が重要項目として掲げている2本柱の一つである「学社融合の推進」につきましては、研究指定や共育コミュニティ事業を中心に、それぞれの地域・幼稚園・小中学校・保育所で、特色を活かした取組みが進められているところです。当該事業については、ご近所や親同志の関わりが希薄化する中、大変重要な事業だと認識しており、徐々にではありますが、子どもの健全育成や学社融合を通じた地域づくり等、地域ぐるみによる成果も現れてきております。

こうした中、平成24年度に研究指定をした上山路小学校・龍神公民館・宮代分館・東西分館・殿原分館につきましては、統合された学校と地域、公民館がどのように連携・融合するのか、正にその取組が注目されているところであり、統合後の望ましい学社融合の在り方についての研究成果が挙がるよう期待しているところです。

また、共育コミュニティ事業の最終年を迎える西部地域においては、地域から新たに2名の方がコーディネーターとして就任され、民間の活力を活かした取組を展開されております。こうした地域のコーディネーターによって、より地域に密着した広がりのある事業展開ができると認識していることから、他の地域においても、地域住民のコーディネーターの確保が必要であると考えております。

なお、今後は、地域住民のコーディネーターの確保と併せて、各地域において学社融合を計画的・継続的に展開するための組織の設置を、全市的に進めてまいりたいと考えています。

③図書館管理運営事業

【意見等】

◇今後も施設の魅力向上に努力していただきたいです。地域にとって、必要な施設として確立するようにお願いします。

◇新館ももっと人を集めるようにイベントや、足を運んでくれるように仕掛けをして欲しいと思う。

◇図書館の運営に努力されているのはよく分かる。さらに、図書館の存在自体が地域の財産になるように、近くに図書館があることによって、地域が振興するとの観点も期待する。

【今後の取組の方向性等】

◇図書館は、平成24年2月に新館としてオープンし、開館以来、連日たくさんの来館者で賑わっています。この新しい図書館では、運営方針として、情報提供サービスの拠点、子ども読書活動の推進、文化・歴史資料の保存と活用、地域へのサービス、世代を超えた交流の場となるように日々活動を続けています。その中では、世代を超えて各種のイベントを計画しています。幼児を対象としたおはなし会や児童を対象としたシネマランド、人形劇などのほか、児童から大人の方まで参加できる科学講座『サイエンス・レクチャー』を開催しています。図書館としては、図書の貸出しやレファレンス（調査相談）のような基本的なサービスだけではなく、将来の田辺市を担う子ども達の知的好奇心や学習意欲を掘り起し、心豊かに成長していくように、さらには文化力の向上につながるような活動を続け、更なる利用者増に繋がりたいと考えています。

④田辺市まちづくり市民カレッジ

【意見等】

◇今年度で最終となりますが、今後、地域での展開に移行します。そのためには、中央と各地域、また地域間での連携を強化する必要があると考えます。

◇共助について受講生同士考え、話し合う事は大変重要なことであると思う。今後においても受講者数の増加につながる取組を期待したい。

◇自立した市民を育成し、積極的に地域創りをする人材を育成しようとしている。自立した市民は、行政への要望も多くなる。それを覚悟で是非とも進めて欲しい。

【今後の取組の方向性等】

◇当該事業は、地域の将来を豊かにしていくための人材育成を目指した「地域コーディネーター養成講座」を発展継承させ、受講者自身が地域課題に向き合い行動することを目的に、地域の未来づくりにつながる人材育成のため地元学講座を開設しているところです。

今年度が事業の最終年となることから、平成26年度以降は、田辺市生涯学習推進計画（後期基本計画）に掲げる重点施策「『縁』パワーメント講座」の開催や、今後、公民館が取り組む「輝け！地域の未来塾」といった事業においても、生涯学習課と地域の公民館との連携をさらに密にする所存であります。

また、市民カレッジは、自助・共助・公助の中で、特に共助について考える良い機会となっていることから、受講生の増加に努めるとともに、過去に講座を受講した修了生についても定期的に交流し地域づくりについて話し合い、再び学ぶことにより更なる能力を身につけ、地域での課題解決に向けた実践に移行できる積極的な人材の育成を図ってまいり

ます。

このような自立した市民を育成し民意を高めることは、結果的に行政レベルを高めることに繋がると考えており、市民と行政が互いの役割を尊重しつつ、時には協働して地域づくりをするといった、成熟した社会の実現を目指したいと考えております。

⑤田辺市生涯学習推進計画 後期基本計画 策定

【意見等】

◇地域住民の声を活かした計画として、常に地域住民との対話を心掛けて頂きたい。また途中報告など情報発信についても行って頂きたいと思えます。

◇基本計画の策定に当たり地域シンポジウムを開催し、多くの市民の参加が得られ、その参加者の意見を踏まえて計画策定を行ったことは、住民の意思を反映する上で大変重要なことである。

◇昨年参加しましたが、必要性の高いことと考えます。

【今後の取組の方向性等】

◇田辺市生涯学習推進計画・後期基本計画につきましては、将来の田辺市のまちづくりを見据え、地域が抱えている様々な課題の解決と、新たな価値の創造へと結びつく生涯学習活動の展開ができるよう、策定段階においては、地域シンポジウムを開催するなど、出来るだけ地域住民のご意見を反映できるような取組を進めてきました。

本計画の実施段階においても、常に地域住民との対話や情報発信等に努めていきたいと考えているところであり、そのことが、真に地域住民の声を活かした生きた計画になると認識しているところです。

また、今後、各公民館においては、計画策定のための地域シンポジウム以外にも、定期的に地域のことを話し合う場としての「地区公民館大会」を開催してまいりたいと考えています。

⑥スポーツ・レクリエーション支援事業

【意見等】

◇この事業により、健全育成、また健康の推進（心身共）を図り、また指導者の育成に活かされています。今後も更なる推進をお願いします。

◇平成14年度に会津小学校区を拠点に『会津スポーツクラブ』が設立された。その後、「ESスポーツクラブ」、「田辺カヌークラブ」、「熊野本宮スポーツクラブ」、「龍神スポーツクラブ」と誕生しているので、更に大塔地域や中辺路地域でのクラブ設立の指導支援を行い、行政と地域住民が共同で地域スポーツの振興に当たることが望まれる。

◇「熱中症の予防とAEDの活用法」の指導者研修会は、救急救命の技術向上に役立っており、現にクラブ活動中に意識を無くした者をプレー仲間が交代で心臓マッサージを施しながら救急車を呼び大事に至らなかったことが報告されている。

◇最近の体罰問題の表面化から「スポーツ指導と体罰暴力」についてのスポーツ指導者研修会の実施が必要である。

◇もっと広く、AED などの取扱いを教えるように力を入れて欲しいと思う。

【今後の取組の方向性等】

◇今後も、引き続き体育連盟・協会、スポーツ少年団等への支援を行うとともに、指導者の育成に努め、競技スポーツ、生涯スポーツの振興を図ってまいります。

総合型地域スポーツクラブ和歌山県協議会では、各地域での連携強化を推進していくため、平成 25 年度から県内を 4 つのブロックに分けて、定期的にブロック別会議を開催することとしています。同会議には行政も参画しており、今後は総合型クラブが設立されていない地域でのクラブ設立支援を含めた取組を進めていきたいと考えています。

体罰等の指導者研修会については、体育連盟、協会、スポーツ少年団等、関係機関・団体等への働きかけを行ってまいります。

また、これまでの AED の研修会については、体育連盟、協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員、学校関係者を中心に呼びかけを行ってきましたが、今後、PTA 等保護者への働きかけも検討してまいります。

⑦紀の国わかやま国体に向けての開催準備業務

【意見等】

◇国体の成功に向け、進めて下さい。

◇平成 27 年（2015）に開催の、紀の国わかやま国体（第 70 回大会）もあと 2 年と迫り、成功に向けた準備を進めているが、今回は、昭和 46 年（1971）の黒潮国体（第 26 回大会）より開催競技が大幅に増えているので、大会運営には万全を期すとともに、各市民団体等との連携体制を強化していただきたい。

◇昭和 46 年の黒潮国体以来 44 年ぶりに開催される紀の国わかやま国体の成功に向けて、国体推進室による準備作業に大きな期待を寄せています。

【今後の取組の方向性等】

◇今回の国体では、正式競技 4 競技、デモンストレーションスポーツ 3 競技に加え、障害者スポーツ大会 2 競技を含めると 9 競技を田辺市で開催することとなります。

2 年後の本大会はもとより、来年 5 月から開催されるリハーサル大会に向け、実行委員会を中心として、庁内にも推進本部を構成し、各種市民団体との連携を図りながら準備が進められるように、現在、各専門部会において各種計画や要項の作成を進めているところです。

国体を成功に導くためにも「田辺市開催方針」に則り、市民が一丸となって英知と情熱を結集し、総力をあげて全国から訪れる方々を温かい「おもてなしの心」でお迎えし、田辺市の魅力を活かした心に残る大会を目指して万全な準備に努めてまいります。

⑧スポーツ・レクリエーション機会の充実

【意見等】

◇様々な意味を持った事業であると考えます。時代に応じた内容で推進して頂きたい。

◇関西実業団対抗駅伝競走大会が龍神で開催（平成 4 年から）されて、昨年（平成 24 年）

で21回を数える。その間、大勢の大会関係者を迎え、地元への経済効果やスポーツ振興が図られている。また、第6回全国スポーツクラブ会議は、紀南文化会館に全国各地から総合型地域スポーツクラブ活動に取り組む約700名が参加して盛大に開催された。これらが開催できたのは、市の補助金をはじめ多数の市民ボランティア活動に負うところが大きい。

◇国体が成功裏に終わることを期待しています。終了後、すでに対応されていると思いますが、施設利用による交流人口の増加を期待しています。

【今後の取組の方向性等】

◇スポーツ・レクリエーション支援事業につきましては、今後も体育連盟・協会・各種団体等並びにスポーツ推進委員を中心としながら、ニュースポーツの普及、指導者の育成等に努め、さらなる振興を図ってまいります。

関西実業団駅伝につきましては、今後も引き続き龍神地域で開催していきたいと考えておりますが、大会運営に関わっていただけるボランティアの確保が課題であると考えています。

一方、国体終了後を見据えたスポーツ合宿誘致の積極的な推進を図るため、田辺・西牟婁地域の自治体で「南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会」を組織し、調査研究の取組を進めております。また、庁内においても観光とスポーツの所管課を中心としたワーキンググループを設置し、スポーツ観光の調査研究を進めています。

(5) 国際化に対応するまちづくり

①田辺市国際交流センターの運営

【意見等】

◇時代として様々な対応が求められる中、同センターは必要であり、より充実した対応が可能になるように図って頂きたい。

◇国際化はこれからもっと進んでいくと考えられるので重要な課題だと思います。

【今後の取組の方向性等】

◇国際交流センターの業務は、平成18年度に策定した「第一次田辺市総合計画」において、市民の国際理解に対する幅広い意識の向上に努め、次代を担う子供たちの外国語教育や国際理解を深める教育などの充実を図るとともに、情報提供や相談活動、在住外国人への各種行政サービスを充実するなど、国際化に対応できるまちづくりを推進すると位置づけているところです。

例えば、現在も国際交流員（CIR（1名））による「子供たちの国際理解を深める教育」や「子供たちの外国語教育」等の活動のほか、在住外国人に対する日本語による日常会話習得のための相談を受け付けています。

今後は、国際交流協センターの活動を充実し、より一層の市民ニーズに対応できる体制づくりを目指してまいります。

7. おわりに

地方分権が進む中で、地方における教育委員会の責任と役割はますます重要となってきました。

こうした中、毎年、事務事業の執行の状況について点検・評価を行い、その改善策を検討し、これを実行に移す。そして、その過程を公表していくことは、教育委員会の果たすべき役割とその意義を広く市民の皆様にお知らせする絶好の機会であると考えています。

今後とも開かれた教育行政の実現を図るため、「点検・評価」を継続的に実施し、その結果を広く公表してまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成 25 年度（平成 24 年度対象）

田辺市教育委員会点検・評価報告書

平成 25 年 9 月

田辺市教育委員会

〒646-0028

和歌山県田辺市高雄一丁目 23 番 1 号

◆TEL 0739-26-9941（直通：教育総務課）

◆FAX 0739-24-8323

◆Email kyouiku@city.tanabe.lg.jp